



Mac Integration Basics 10.9

Windowsおよびその他の標準ベースの
ネットワークへのMacの統合

🍏 Apple Inc.
© 2013 Apple Inc. All rights reserved.

Appleのロゴは、米国その他の国で登録されたApple Inc.の商標です。Appleの事前の書面による同意なく、商用で「キーボード」のAppleのロゴ（Option-Shift-K）を使用された場合、商標侵害および日本あるいは米国の連邦法ならびに州法を侵害した不正競争となる場合があります。

Apple、Appleのロゴ、AirMac、Finder、FireWire、iPhone、iPod、iTunes、Mac、Mac OS、QuickTime、Safari、およびTime Machineは、米国その他の国で登録されたApple Inc.の商標です。

iPadはApple Inc.の商標です。

AppleCareは、米国その他の国で登録されたApple Inc.のサービスマークです。

Bluetooth®のワードマークとロゴはBluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標です。また、Appleのワードマークやロゴの使用は実施権に基づいていません。

AdobeおよびPostScriptは、Adobe Systems Incorporatedの商標もしくは、米国その他の国における同社の登録商標です。

UNIXは、米国その他の国におけるThe Open Groupの商標です。

本書に記載のその他の製品名および会社名は各社の商標です。本書に記載の他社商品名は参考を目的としたものであり、それらの製品を保証あるいは推奨するものではありません。また、Apple Inc.は他社製品の性能または使用につきましては一切の責任を負いません。すべての同意、契約、および保証は、ベンダーと将来のユーザーとの間で直接行われるものとします。

すべての同意、契約、および保証は、ベンダーと将来のユーザーとの間で直接行われるものとします。

本書に記載されている情報の正確性には最大の注意を払っています。ただし、誤植や制作上の誤記がないことを保証するものではありません。

Appleは定期的にソフトウェアの新しいバージョンおよびアップデートをリリースするため、本書に含まれる画像と実際の画面が異なる場合があります。

2013年11月5日

目次

はじめに	5
概要	5
必要な知識	5
ネットワークアカウント	6
ネットワークアカウントサーバに接続するためのMacの設定	6
ネットワークアカウントの使い方	10
まとめ	11
ファイル共有	12
ファイルサーバへの接続	12
パーソナルファイル共有	14
まとめ	15
メール、カレンダー、連絡先	16
「インターネットアカウント」環境設定	16
メール、連絡先、カレンダーでのアカウントの追加	22
まとめ	25
セキュリティ	26
ユーザーアカウントのセキュリティ	26
システムのセキュリティ	29
ネットワークのセキュリティ	35
まとめ	40
OS Xコンピュータからのプリント	41
USBプリンタへの接続	41
ワイヤレスでプリントするためのプリンタの設定	42
ネットワークプリンタへのプリント	42
プリンタの機能の指定	45
プリンタの共有	45
まとめ	46

インスタントメッセージング	47
iMessageとiOSデバイスについて	47
Jabberアカウントについて	48
メッセージの設定	48
ローカルネットワーク上でのチャット	51
まとめ	51
データの管理とバックアップ	52
WindowsからMacへのデータの移行	53
データのバックアップ	55
まとめ	58
クロスプラットフォームの互換性	59
クロスプラットフォームの互換性	60
MacでWindowsを実行する	61
まとめ	67
関連情報	68
Mac Integration Basics試験	68
サポート	68

概要

このガイドは、主にWindowsベースの小企業ビジネス環境にMacコンピュータを追加する方を対象としています。サーバとしてWindows Server Essentialsが使用されている場合が多いと考えられます。また、WindowsコンピュータからMacに移行するユーザー、およびMacユーザーをサポートするシステム管理者も対象としています。

このガイドでは、組織のネットワーク環境にMacを統合する様々な方法について学習します。Macを設定してActive Directoryで機能するようにする方法や、ネットワークサービス、ファイル共有、プリント、インスタントメッセージング、メール、カレンダー、連絡先を利用する方法も説明します。

また、ユーザーレベル、ローカルネットワークレベル、リモートネットワークレベルでのセキュリティについても学習します。データの管理については、Windowsコンピュータからデータを移行する方法、および重要なデータをバックアップする方法を学習します。最後に、Macで直接Windowsプログラムを実行する方法を学習し、Windowsを使用している同僚と完全に互換性を持ち、相互運用できるようにします。

必要な知識

OS Xの操作および用語に関する基本的な知識が必要です。Macが初めての場合は、Macの使い方を紹介するApple Supportのリソースである「Macの基本」を確認してください。「Macの基本」はオンライン (www.apple.com/jp/support/macbasics/) で利用できます。

Windows Server EssentialsおよびWindows Serverは、Active Directoryを使って、アカウント、認証および共有サービスをネットワークユーザーに提供します。Open Directoryは別のディレクトリサーバ実装で、LDAPディレクトリサービスを使うことができます。組織でどのディレクトリサービスプロトコルを使用しているても、Macユーザーは既存のネットワークに簡単に参加でき、ネットワークリソースを強力な認証とパスワードによって保護するという企業の方針に対応できます。OS Xにはネットワークアカウントのサポートが組み込まれているので、ディレクトリサービスを使用したネットワークにMacを簡単に追加できます。

ネットワークアカウントサーバに接続するためのMacの設定

Macでネットワークアカウントを使えるようにするには、まずディレクトリサーバへの接続を設定する必要があります。この設定プロセスをバインドと呼びます。

Macからサーバへのバインドは、システム環境設定の「ユーザとグループ」ペインで行います。このプロセスを開始するには、管理者として認証する必要があります。次に、Active DirectoryサーバとOpen Directory/LDAPサーバにバインドする方法について学習します。

Active Directoryサーバにバインドする

MacをActive Directoryサーバにバインドする前に、サーバ管理者から次の情報を入手する必要があります。

- Active Directoryドメインのアドレス
- Active Directoryサーバの管理者のユーザー名
- Active Directoryサーバの管理者のパスワード

注意：サーバ管理者から、コンピュータで使用するコンピュータIDを指定される場合もあります。

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択します。
2. 「ユーザとグループ」をクリックします。



3. カギのアイコンがロックされている場合は、カギをクリックしてロックを解除します。
管理者アカウントの名前とパスワードを入力します。
4. 「ログインオプション」をクリックします。



5. 「接続」ボタンをクリックします。

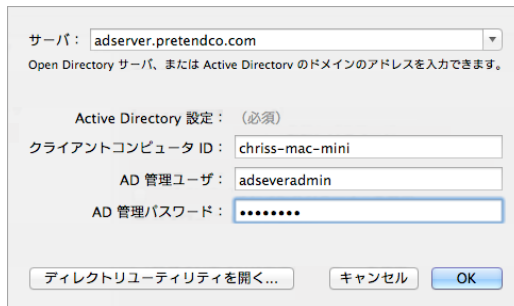
以前にディレクトリサーバに接続したことがある場合は、「接続」ボタンの代わりに「編集」ボタンをクリックします。ダイアログが表示されるので、以前に接続したサーバのリストの下にある追加 (+) ボタンをクリックします。



6. 「サーバ」フィールドに、サーバ管理者から入手したActive Directoryの管理者ユーザー名およびパスワードを入力します。

OS XがアドレスをActive Directoryサーバの1つであることを認識すると、ダイアログが開き、「Active Directory設定」フィールドが表示されます。

7. サーバの管理者から入手したActive Directoryのユーザー名およびパスワードを入力します。



8. オプションで、Active Directoryがサーバに対して使用するIDを編集します。

「クライアントコンピュータID」には、コンピュータの名前が入力されています。(Macが「共有」環境設定で使用している名前と同じです。) 組織で定められたActive Directoryドメインのコンピュータの命名規則に従って、コンピュータ名を変更できます。不明な場合はサーバの管理者に問い合わせてください。

9. 「OK」をクリックします。

Active DirectoryドメインにMacのレコードが作成されます。

Open DirectoryまたはLDAPサーバにバインドする

Open Directoryサーバを追加するには、サーバ管理者から次の情報を入手する必要があります。

- サーバ名またはIPアドレス。
- サーバがセキュアソケットレイヤー (SSL) プロトコルを必要とするかどうか。

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択します。
2. 「ユーザとグループ」をクリックします。

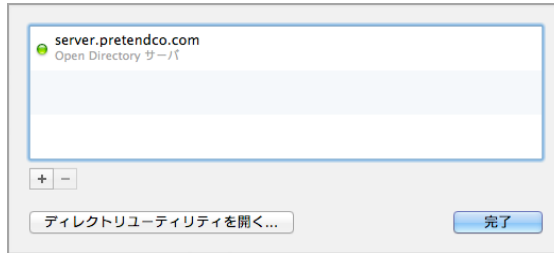


3. カギのアイコンがロックされている場合は、カギをクリックしてロックを解除します。管理者アカウントの名前とパスワードを入力します。
4. 「ログインオプション」をクリックします。

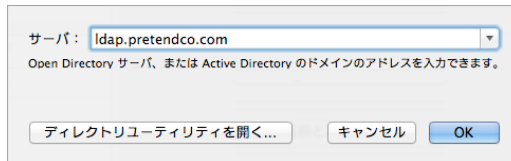


5. 「接続」ボタンをクリックします。

以前にディレクトリサーバに接続したことがある場合は、「接続」ボタンの代わりに「編集」ボタンをクリックします。ダイアログが表示されるので、以前に接続したサーバのリストの下にある追加 (+) ボタンをクリックします。

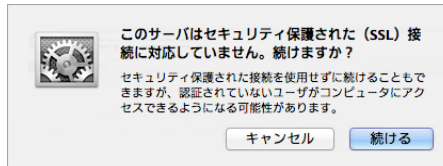


6. ポップアップメニューからサーバを選択するか、サーバのドメイン名（またはIPアドレス）を手入力します。



7. 「OK」をクリックします。

OS Xがディレクトリサーバに接続されます。ディレクトリサーバがSSL経由でセキュリティ保護された接続を提供していない場合は警告が表示され、そのサーバへの接続を続行またはキャンセルするためのオプションが表示されます。



これでMacをLDAPサーバにバインドできました。ネットワークユーザーアカウントを使用してログインできます。

ネットワークアカウントの使い方

ログインする前に、サーバ管理者からネットワークアカウントのユーザー名とパスワードを入手してください。Active Directoryアカウントの場合、ユーザー名のフォーマットは次の3つのいずれかです。

- ショートネーム
- <ショートネーム>@<ドメイン>.com
- <ドメイン>\<ショートネーム>

ネットワークアカウントを使ってログインする

1. 現在Macにログインしている場合は、アップルメニューから「ログアウト」を選択してログアウトします。

OS Xがログアウトし、ログインウィンドウにすべてのローカルユーザーアカウントと「その他のユーザ」が表示されます。

コンピュータにローカルユーザーアカウントが1つしかない場合は、ログアウトするとそのアカウントのためのログイン画面が表示されます。アカウント名の前の左矢印のアイコンをクリックして、「その他のユーザ」ログインボタンにアクセスします。

2. 「その他のユーザ」をクリックし、サーバ管理者から入手したネットワークアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
3. Returnキーを押すか、「ログイン」（右矢印）ボタンをクリックします。

これで、ディレクトリサーバから提供されたアカウントを使ってMacにログインできました。Macシステムは完全にネットワークに統合されています。

まとめ

この章では、Macを設定してディレクトリサーバに接続する手順について学習しました。このセクションで学習したことに基づいて、次のタスクを実行してください。

- Macをディレクトリサーバにバインドするのに必要な情報を、ディレクトリサーバの管理者から入手します。
- Macをディレクトリサーバにバインドします。
- ネットワークユーザーアカウントを使ってMacにログインします。

これらの手順を完了すると、組織のディレクトリサーバによって提供されるユーザー認証およびネットワークリソースをMacで利用できます。OS Xのビルトインサポートにより、簡単にこのプロセスを完了できます。

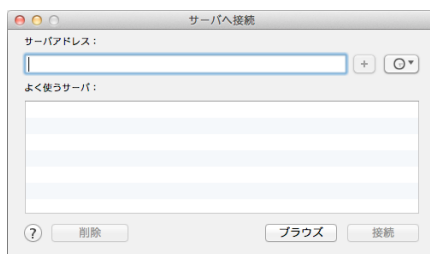
組織では、ネットワークコンピュータ間で常にファイルやリソースが共有されます。OS Xは、一般的なファイルサーバプロトコルに幅広く対応しています。この章では、Macをファイルサーバに接続する方法を学習します。また、パーソナルファイル共有を設定して、Mac上のファイルにほかのネットワークユーザーがアクセスできるようにします。

ファイルサーバへの接続

ファイル共有が有効になっているMacおよびWindowsコンピュータ、およびAFP、SMB/CIFS、NFS、WebDAV、およびFTPプロトコルを使用しているファイルサーバに接続できます。ネットワーク上のコンピュータおよびファイルサーバに格納されている共有ファイルにアクセスするには、Finderウィンドウで名前を入力してコンピュータをブラウズするか、「サーバへ接続」ダイアログに直接コンピュータのIPアドレスを入力します。

ブラウズしてコンピュータまたはサーバに接続する

1. Finderで「移動」>「サーバへ接続」を選択します。



2. 「ブラウズ」をクリックします。

Finderウィンドウに、ネットワーク上で共有が有効になっているコンピュータがリスト表示されます。

3. コンピュータ名またはサーバ名を検索します。

また、コンピュータがあるネットワーク領域やワークグループがわかっていない必要ありません。

4. 接続したい共有コンピュータまたはサーバが見つかったら、選択して「別名で接続」をクリックします。
5. 必要に応じて、ユーザー名とパスワードを入力し、サーバ上のボリュームまたは共有フォルダを選択します。

注意：今後サーバに簡単に接続できるようにするには、「このパスワードをキーチェーンに保存」を選択してサーバのユーザー名とパスワードをキーチェーンに追加します。次にこのファイルサーバに接続したい時は、認証情報が記憶されているため、自動的にアクセスできます。

Windowsファイルサーバに直接接続する

1. Finderで「移動」>「サーバへ接続」を選択します。
2. 「サーバアドレス」フィールドに、コンピュータまたはサーバのネットワークアドレスを次のいずれかのフォーマットで入力します。

```
smb://DNSname/sharename
```

```
smb://IPAddress/sharename
```

ここで、*DNSname*はサーバのドメイン名、*IPaddress*はサーバのIPアドレス、*sharename*はマウントされる共有ボリュームの名前です。

注意：SMBとは、Windowsコンピュータで共有ネットワークアクセスの提供に使用される Server Message Block（サーバメッセージブロック）プロトコルの略です。SMBは、Common Internet File System（共通インターネットファイルシステム、CIFS）とも呼ばれます。

最近ファイルサーバに接続したことがある場合は、「最近使ったサーバ」（時計）ポップアップメニューから選択することもできます。



「よく使うサーバ」リストにコンピュータまたはサーバを追加するには、アドレスを入力した後に追加（+）ボタンをクリックします。



「よく使うサーバ」リストにサーバを追加すると、リストでサーバのアドレスをダブルクリックできます。

3. 「接続」をクリックします。
4. 「ユーザの種類」では、「登録ユーザ」を選択して、サーバ管理者が指定したユーザー名とパスワードを入力します。

これで、Macから、ネットワークファイルサーバに格納されているファイルにアクセスできるようになりました。パーソナルファイル共有を使って、ほかのネットワークユーザーが自分のファイルにアクセスできるようにMacを設定したい場合があります。次のセクションでは、Macでパーソナルファイル共有を有効にする方法を見ていきます。

パーソナルファイル共有

ほかのネットワークユーザーが自分のMacに接続できるようにするには、システム環境設定でファイル共有をオンにする必要があります。共有しないファイルのセキュリティを保持するため、Macでファイル共有専用のアカウントを作成できます。

自分の共有ファイルへのアクセスを許可するユーザーに、次の情報を提供する必要があります。

- 自分のMacのIPアドレスまたはBonjour（OS Xの自動ネットワーク検出機能）アドレス
- ファイル共有を有効にしたMacのユーザーアカウント名
- Macのファイル共有用アカウントのユーザーアカウントパスワード

注意：最新バージョンのOS Xをインストールする前に存在したユーザーアカウントを使用したい場合は、「ユーザとグループ」環境設定で、そのアカウントのパスワードをリセットします。

共有を設定する前に、ネットワークユーザーと共有するフォルダを選択し、ネットワークユーザーに対して許可する権限を選択します。デフォルトで、Mac管理者アカウントは完全な読み出し／書き込みアクセス権がありますが、それ以外のすべてのユーザーは読み出しアクセスのみ許可されます。

共有フォルダを選択する

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「共有」をクリックします。
2. リストから「ファイル共有」を選択します。
3. 「共有フォルダ」リストの下にある追加（+）ボタンをクリックして、フォルダを探して選択し、「追加」をクリックします。
4. デフォルトで、「ユーザとグループ」環境設定でMac上に設定したユーザーは、ネットワーク経由でMacに接続できます。管理者アカウントを持つユーザーは、コンピュータ全体にアクセスできます。

特定のユーザーにのみフォルダへのアクセスを許可するには、「共有フォルダ」リストで目的のフォルダを選択し、「ユーザ」リストの下での追加（+）ボタンをクリックします。次のいずれかを実行します。

- Macのすべてのユーザーを含む「ユーザとグループ」からユーザーを選択します。
 - ネットワーク上のユーザー全員を含む「ネットワークユーザ」または「ネットワークグループ」からユーザーを選択します。
 - 連絡先からメンバーを選択します。メンバーにパスワードを作成して「アカウントを作成」をクリックします。
5. 「ユーザ」リストでユーザーを選択し、ユーザー名の横にある三角形をクリックして、選択したフォルダに対するユーザーのアクセスレベルを選択します。
 - アクセス不可：ユーザーはファイルを表示したり、フォルダからファイルをコピーしたりできません。このオプションは、「全員」にのみ適用できます。ほかのユーザーのファイルやフォルダへのアクセスを拒否するには、そのユーザーを選択して、削除（-）ボタンをクリックします。
 - 読み／書き：ユーザーはファイルを表示して、フォルダからファイルをコピーできます。
 - 読み出しのみ：ユーザーは、フォルダの中身を表示できますが、フォルダにファイルをコピーすることはできません。
 - 書き込みのみ（ドロップボックス用）：ユーザーはフォルダにファイルをコピーできますが、その内容を表示することはできません。

6. 承認されたユーザーが自分のコンピュータでファイルを共有できるように、コンピュータのIPアドレスまたはBonjourアドレス、ユーザー名およびパスワードを承認されたユーザーに提供します。コンピュータのBonjourアドレスは「共有」ペインに表示されます。

これでユーザーにアクセス権を付与し、フォルダへのアクセス権を設定できました。今度は、コンピュータがファイル共有のために使用するプロトコルを設定します。Apple Filing Protocol (AFP) またはServer Message Block (SMB) プロトコルを使ってファイルを共有できます。OS Xでは、Macコンピュータとのファイル共有にAFPを使用し、Windowsユーザーとのファイル共有にSMBを使用します。次のセクションでは、Macでファイル共有を有効にする方法を学習します。

WindowsおよびMacユーザーに対してパーソナルファイル共有を有効にする

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「共有」をクリックします。
2. 「ファイル共有」を選択してから、「オプション」をクリックします。
3. 「SMBを使用してファイルやフォルダを共有 (Windows)」または「AFPを使用してファイルやフォルダを共有」を選択します。複数の項目を選択することができます。

Windowsユーザーとファイルを共有する場合は、必ずSMBオプションを選択し、Windowsコンピュータからファイルを共有する各アカウント名の横にある「オン」チェックボックスを選択して、そのアカウントのパスワードを入力します。

コンピュータのセキュリティを保護するため、「ユーザとグループ」環境設定でWindowsユーザー専用のアカウントを作成することができます。

注意：Windowsユーザーのパスワードはセキュリティレベルの低い方法で保存される場合があります。そのため、アカウントを使用しない場合はアカウントをオフにしてください。アカウントをオフにするには、アカウントの横にある「オン」チェックボックスの選択を解除します。コンピュータでファイル共有をオフにする前に、必ずアカウントをオフにしてください。オフにしないと、セキュリティレベルの低い方法でパスワードが保存されます。

4. 「完了」をクリックします。

これでMacでパーソナルファイル共有が有効になりました。承認されたネットワークユーザーは、共有するよう設定したファイルおよびボリュームにアクセスできるようになりました。

まとめ

この章では、Macとネットワークファイルサーバとの間でファイルを共有する手順について学習しました。このセクションで学習したことに基づいて、次のタスクを実行してください。

- Macでブラウズおよび直接接続を使って、ネットワーク上の共有ファイルにアクセスします。
- パーソナルファイル共有のフォルダおよびユーザーアクセス権を設定します。
- MacでSMBおよびAFPを使ってパーソナルファイル共有を有効にします。
- ネットワークユーザーにユーザー名およびパスワードを提供し、Mac上のファイルにアクセスできるようにします。

OS Xは、Microsoft Exchange Server、POP、SMTPといった標準ベースのサーバに対応しています。箱から出してすぐに、これらを使ったEメール、連絡先、カレンダーを利用できます。OS Xでは、Eメール、カレンダー、グローバルアドレス一覧などの共有サービスに簡単に直接接続できます。メール、カレンダー、および連絡先を使い、Spotlight、クイックルック、データ検出などのMacのパワフルな機能を活用できます。

この章では、OS Xのメールアプリケーションを設定して一般的なサーバ経由でEメールを送受信する方法を学習します。次に、連絡先を設定して共有アドレスデータにアクセスする方法を学習します。最後に、カレンダーを設定して共有カレンダーサービスにアクセスする方法を学習します。

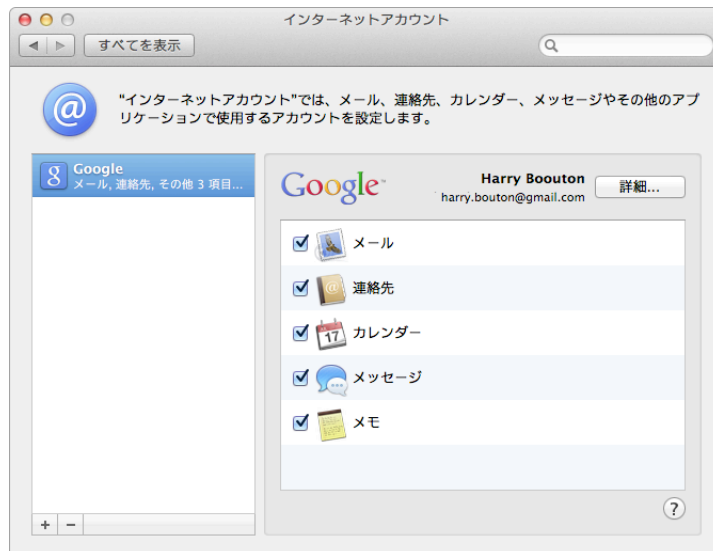
「インターネットアカウント」環境設定

Eメール、インスタントメッセージング、およびサーバが提供する連絡先やカレンダーにアクセスできるようMacを設定する必要がある場合はシステム環境設定の「インターネットアカウント」ペインからはじめてください。「インターネットアカウント」で、iCloud、Googleなどのウェブサービスプロバイダのアカウントに関する情報を使って、メール、メッセージやその他のアプリケーションをすばやく設定できます。同じアカウント情報をそれぞれのアプリケーションで設定する必要はありません。

システム環境設定の「インターネットアカウント」ペインの左側にあるリストに、設定アシスタントを使用したOS Xの初期設定、アプリケーションから作成、または「インターネットアカウント」環境設定を使用して作成したウェブサービスプロバイダの情報が表示されます。右側には主なサービスのリストが表示され、「インターネットアカウント」での設定に役立ちます。



アカウントを選択すると、どのアプリケーションに使用されているかを確認できます。



アカウントに関する情報を表示または変更するには、アカウントを選択して「詳細」をクリックします。

選択したアカウントを削除して、その機能をすべてオフにするには、削除 (-) ボタンをクリックします。iCloudキーチェーンが設定されたアカウントを1台のMacで削除するとiCloudキーチェーンを設定したほかのMacコンピュータやiOSデバイスからも削除されます。

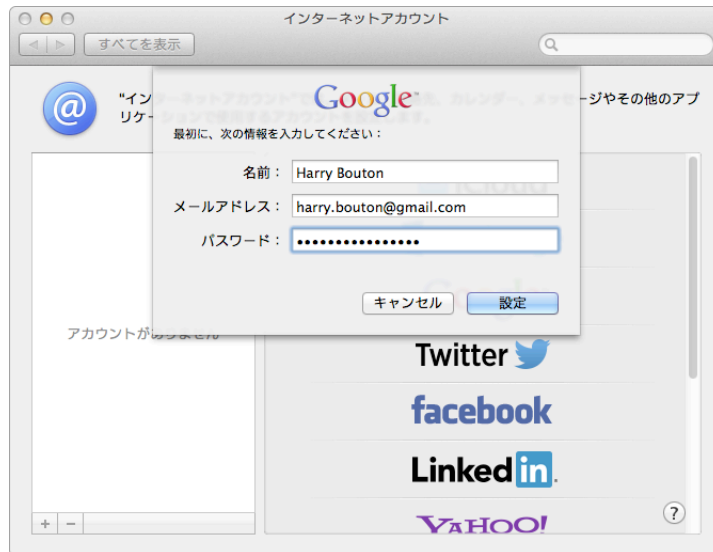
選択したアカウントを複数のアプリケーションが使用している場合は、アプリケーションのチェックボックスを選択解除すると、そのアプリケーションのアカウントの使用を停止できます。

「インターネットアカウント」環境設定にアカウントを追加する

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「インターネットアカウント」をクリックします。
2. アカウントの追加が完了し、それを選択している場合は、追加 (+) ボタンをクリックします。



3. アカウントの種類をクリックしてアカウント情報を入力し、画面の指示に従います。



4. アカウントで使いたいアプリケーションが選択されていることを確認します。



Exchangeサーバへの接続

MacをExchangeサーバに接続するには、サーバ管理者から次の情報を入手する必要があります。

- Exchangeのユーザー名
- Exchangeのパスワード

ExchangeサーバでExchange自動検出サービスが有効になっていない場合は、組織のクライアントアクセスサーバ（CAS）の完全修飾ドメイン名（標準的な形式はexchange01.example.com）も必要です。

必要な情報を入手したら、Exchangeを使うよう手動でMacを構成するか、可能な場合はExchange自動検出サービスを使ってMacを構成できます。

注意：OS Xは、Microsoft Exchange Server 2007 Service Pack 1 Rollup 4またはExchange Server 2010に対応しています。

自動検出が有効になっているExchangeサーバに接続する

メール、連絡先、およびカレンダーを設定してExchangeに最も簡単にアクセスするには、Exchange自動検出サービスを使います。Exchangeサーバでこの機能が有効になっていれば、「インターネットアカウント」でアカウントを追加して、Exchangeを選択し、ExchangeのEメールアドレスとパスワードを入力するだけです。

OS XはExchangeの自動検出サービスを使って関連するアカウント情報を取得するので、Exchangeサービスをすぐに使いはじめることができます。Exchangeサーバで自動検出サービスが有効になっていない場合は、次の手順に従い、Eメールアカウントを手動で設定します。

Exchangeサーバに接続するアカウントを手動で構成する

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「インターネットアカウント」をクリックします。
2. アカウントの追加が完了し、それを選択している場合は、追加（+）ボタンをクリックします。
3. サービスのリストで「Exchange」をクリックします。
4. ユーザーの情報を入力します。
5. 「続ける」をクリックします。

メールがアカウントのセットアップを完了するために必要な情報を検索します。情報が見つからない場合は、次の手順に進みます。

6. アカウントの説明（「仕事」や「Exchange」など）を入力します。

7. 「サーバのアドレス」フィールドで、組織のExchangeクライアントアクセスサーバの完全修飾ドメイン名を入力します。
8. 「続ける」をクリックします。
9. 「連絡先」と「カレンダー」のチェックボックスが、これらのアプリケーションを自動で設定するよう選択されていることを確認します。
10. 「完了」をクリックします。

注意：組織のネットワーク以外からMacを使ってExchangeサーバにアクセスするには、ポート443が開いていること、およびExchange Webサービス（EWS）が有効になっていることをサーバ管理者に確認します。

これでメールでExchangeを使えるようになりました。正しく設定できたことを確認するには、Eメールをチェックし、Exchangeアカウントから同僚にEメールを送信します。

POPサーバおよびIMAPサーバを使ったEメール

組織がWindows以外のサーバを使ってEメールサービスを管理している場合、Eメールを設定して簡単にアクセスできます。一般的なEメールサーバプロトコルには、クライアントコンピュータがEメールサーバ上のメッセージにアクセスするためのポストオフィスプロトコル（POP）とインターネットメッセージアクセスプロトコル（IMAP）、およびクライアントコンピュータからEメールサーバ、またはEメールサーバ間でメッセージを送信するための簡易メール転送プロトコル（SMTP）があります。

POPおよびIMAPを使ったEメールサービスに接続するようメールを設定する

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「インターネットアカウント」をクリックします。
2. アカウントの追加が完了し、それを選択している場合は、追加（+）ボタンをクリックします。
3. サービスのリストで「その他のアカウントを追加」をクリックします。
4. 「メールアカウントを追加」を選択して、「作成」をクリックします。
5. Eメールアカウントの氏名、メールアドレス、パスワードを入力します。
6. 「作成」をクリックします。

OS Xがメールサーバの種類を認識して、正常に接続できると、Eメールアカウントが作成され、Eメールの送受信を開始できます。うまくいかない場合は、アカウントを手動で設定する必要があります。

7. アカウントを手動で作成する必要があることを示すメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。
8. 「受信メールサーバの種類」で、Eメールアカウントの種類（IMAPまたはPOP）を選択します。
9. ISPまたはEメールサーバの管理者によって提供されたEメールサーバのアドレスを入力します。
10. 「ユーザ名」フィールドおよび「パスワード」フィールドが正しいことを確認します。
11. 「次へ」をクリックします。
12. ポートアドレスと認証の種類が表示されたら、正しいことを確認し、「次へ」をクリックします。
13. 「送信メールサーバの情報」で、送信Eメールサーバのアドレスと認証情報を入力します。

14. 「作成」をクリックして処理を完了します。

これで一般的なEメールサーバプロトコルを使えるようにメールを設定できました。正しく設定できたことを確認するには、Eメールボックスをチェックし、自分自身や同僚にテスト用のEメールを送信します。

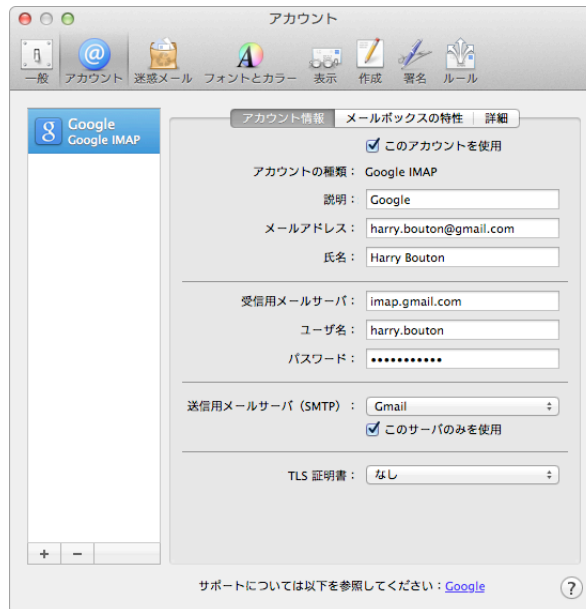
メール、連絡先、カレンダーでのアカウントの追加

アカウントは「インターネットアカウント」環境設定で設定できますが、メール、連絡先、カレンダーアプリケーション内でアカウントを設定した方がよい場合があります。例えば、自分の好きなカレンダーアプリケーションや連絡先アプリケーションをインストールした場合、「メール」内でEメールアカウントを設定した方が、「メール」とシステム環境設定を行き来するより簡単なことがあります。

メール

メールアプリケーションから新しいアカウントを追加するには、「メール」メニューから「アカウントを追加」を選択します。アシスタントが表示されるので、指示に従いEメールアカウントを追加する手順を実行します。

Eメールサーバへの接続で問題が発生した場合は、Eメールサービスまたはサポート部門にログイン情報を確認しなければならない可能性があります。「メール」でログイン情報を確認するには、「メール」>「環境設定」の順に選択して、「アカウント」をクリックします。



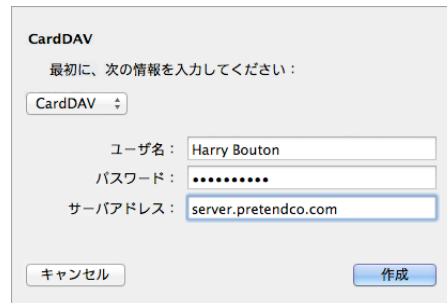
「アカウント情報」フィールドの説明を表示するには、右下のヘルプ (?) ボタンをクリックします。

連絡先

連絡先アプリケーションから新しいアカウントを追加するには、「連絡先」メニューから「アカウントを追加」を選択します。アシスタントが表示されるので、指示に従い連絡先アカウントを追加する手順を実行します。

連絡先には、CardDAVとLDAPという2種類の固有のアカウントがあります。

CardDAVは連絡先情報のアクセスと共有のためのインターネット標準です。CardDAVアカウントをホストするCardDAVサーバのアドレスについては、サーバ管理者に問い合わせてください。



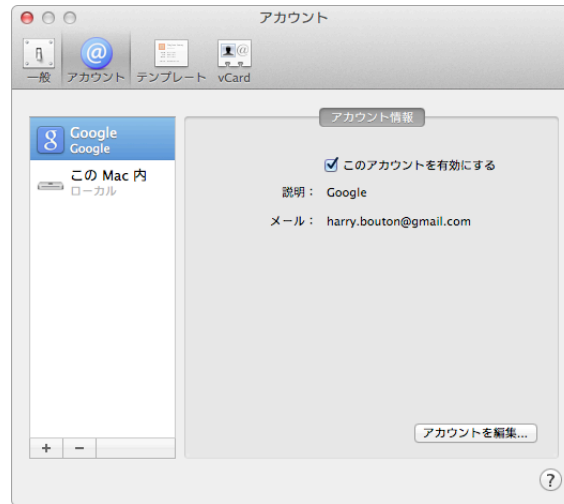
The screenshot shows the 'CardDAV' account creation window. At the top, it says 'CardDAV' and '最初に、次の情報を入力してください：' (First, enter the following information:). Below this is a dropdown menu set to 'CardDAV'. There are three input fields: 'ユーザ名' (Username) with the value 'Harry Bouton', 'パスワード' (Password) with masked characters '*****', and 'サーバアドレス' (Server address) with the value 'server.pretendco.com'. At the bottom, there are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and '作成' (Create).

LDAPインターネットアカウントは、LDAPディレクトリサーバの情報を検索するためのインターネット標準です。LDAPサーバがどのように構成されているかによって、入力すべき情報が複雑になる場合があります。入力する値は、必ずサーバ管理者に正しいものを提供してもらってください。



The screenshot shows the 'LDAP' account creation window. At the top, it says 'LDAP' and '最初に、次の情報を入力してください：' (First, enter the following information:). Below this is a dropdown menu set to 'LDAP'. There are four input fields: '説明' (Description) with the value 'PretendCo Employee Contacts', '検索ベース' (Search base) with the value 'ou=employees, ou=pretendco, ou=', '検索範囲' (Search scope) with a dropdown set to 'サブツリー' (Subtree), and 'サーバアドレス' (Server address) with the value 'directory.pretendco.com'. Below the server address field is a link 'サーバオプション' (Server options). At the bottom, there is a '認証' (Authentication) dropdown set to 'なし' (None). At the very bottom, there are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and '作成' (Create).

連絡先アプリケーションで利用できるアカウントを確認するには、「連絡先」>「環境設定」の順に選択して、「アカウント」をクリックします。

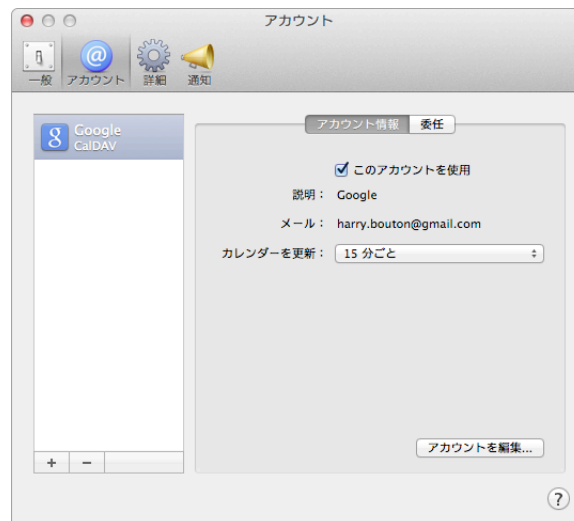


ここから、それぞれのアカウントを有効または無効にすることができます。

カレンダー

カレンダーアプリケーションから新しいアカウントを追加するには、「カレンダー」メニューから「アカウントを追加」を選択します。アシスタントが表示されるので、指示に従いアカウントを追加する手順を実行します。

カレンダーアプリケーションで利用できるアカウントを確認するには、「カレンダー」>「環境設定」の順に選択して、「アカウント」をクリックします。



ここから、カレンダーアプリケーション内のアカウントを有効または無効にすることができます。

まとめ

この章では、Macを設定してサーバベースのEメール、連絡先、およびカレンダーサービスにアクセスする方法を学習しました。このセクションで学習したことに基づいて、次のタスクを実行してください。

- 「インターネットアカウント」環境設定を使用して、Eメール、連絡先、およびカレンダーのアカウントを追加します。
- 「メール」、「連絡先」、「カレンダー」の各アプリケーションからアカウントを追加します。

OS Xは、ネットワークとコンピュータのセキュリティに関する主な問題のすべてに対応できる、強力で使いやすいツールが用意されています。ユーザーデータの保護、Macシステム全体の保護、ネットワークセキュリティの保護など、あらゆるレベルで強力なセキュリティを保持することが重要です。セキュリティは複雑な課題であり、ここで総合的に扱うことはしません。詳しくは、この章の最後にある関連情報を参照してください。

この章では、強力なパスワードを選択し、ホームフォルダへのアクセス権を設定し、FileVault 2を有効にすることによって、ユーザーデータを保護する方法を学習します。次に、ファームウェアパスワードを設定したり、ウイルス対策ソフトウェアを有効にしたりすることによって、Macシステムを保護する方法を学習します。最後に、OS XファイアウォールおよびVPNアクセスサービスを設定することによって、ネットワークのセキュリティを有効にする方法を学習します。

ユーザーアカウントのセキュリティ

パスワードの選択

職場環境のすべてのユーザーが強力なパスワードを作成することが重要です。パスワードが弱いと、パスワードが解読され、Mac、ファイル、個人的なEメールアカウントや会社の機密情報へのアクセスを許してしまう可能性があります。パスワードは、ソフトウェアのインストール、アカウントの設定、キーチェーンへのアクセス、コンピュータへのログインに使用されるため、パスワードの選択は、コンピュータのセキュリティを保護する上で非常に重要です。

最も安全なパスワードは、大文字、小文字、特殊文字（\$@!#など）と数字を組み合わせたものです。例えば、L1quid\$m0keは長く、覚えやすく、文字が特殊文字と数字に置き換えられてまれなフレーズとなっているため、よいパスワードです。

OS Xにはパスワードアシスタントという機能が搭載されています。パスワードの複雑さをチェックし、強力なパスワードを作成できます。生成したいパスワードの長さや種類を指定できます。

次の方法でパスワードを設定できます。

手入力 パスワードを入力すると、パスワードアシスタントによってパスワードの強さが「品質」バーに表示されます。パスワードが弱い場合は、パスワードアシスタントでパスワードの品質を強化するためのヒントが表示されます。

覚えやすい パスワードの長さを設定すると、パスワードアシスタントによって辞書の単語といくつかのランダムな文字から構成される覚えやすいパスワードのリストが生成されます。例：wept1]puller

文字と数字 パスワードの長さを設定すると、パスワードアシスタントによって文字と数字を組み合わせたパスワードのリストが生成されます。例：t5FCF4lh2yc

数字のみ パスワードの長さを設定すると、パスワードアシスタントによって数字のみを含むパスワードのリストが生成されます。例：007515850186

ランダム パスワードの長さを設定すると、パスワードアシスタントによってランダムな文字を含むパスワードのリストが生成されます。例：)RO{AFKTDc\0

FIPS-181準拠 パスワードの長さを設定すると、パスワードアシスタントによってFIPS-181準拠のパスワードが生成されます。例：cdavicourgok

パスワードアシスタントを使ってパスワードを作成する

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「ユーザとグループ」をクリックして「パスワードを変更」ボタンをクリックします。
2. 「新しいパスワード」フィールドの右側にあるカギのボタン (🔑) をクリックすると、パスワードアシスタントが開きます。

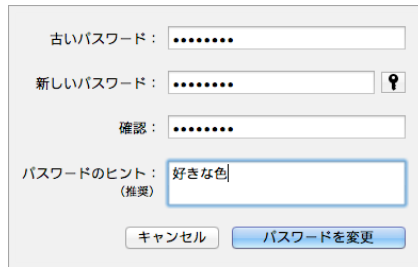


3. 「タイプ」ポップアップメニューから「覚えやすい」「手入力」または自分の会社のセキュリティ基準に合うパスワードの種類を選択します。



また、「長さ」スライダを左右に移動すると、自動的に生成されるパスワードの文字数を選択できます。

4. 「パスワードを変更」ボタンをクリックします。



The screenshot shows a macOS dialog box for changing a password. It contains four text input fields: '古いパスワード:' (Old Password), '新しいパスワード:' (New Password), '確認:' (Confirm), and 'パスワードのヒント:' (Password Hint). The hint field has the text '好きな色' (Favorite color) and '(推奨)' (Recommended) below it. At the bottom, there are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and 'パスワードを変更' (Change Password).

強力なパスワードを設定することにより、不正アクセスから個人情報を保護します。

コンピュータ画面のロック

コンピュータから離れている間もログインした状態を継続し、ほかの人が使用するのを防ぐ必要がある場合は、画面をロックできます。コンピュータの所に戻ったら、ログイン名とパスワードを入力して作業を継続できます。

コンピュータのロック解除に認証を求める

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「セキュリティとプライバシー」の「一般」をクリックします。
2. 「スリープ解除／スクリーンセーバ解除にパスワードを要求」を選択します。

ポップアップメニューで、パスワードを求めるまでの時間を設定できます。



画面をロックしても、ほかのユーザーがコンピュータの電源を切って再起動し、自分のアカウントにログインできなくなるわけではありません。こうしたことが起きる可能性がある場合は、コンピュータから離れる前に必ず作業内容を保存してください。

ファストユーザスイッチが有効になっている場合は、画面の右上にあるユーザー名のメニューから「ログインウインドウ」を選択すると、画面をすばやくロックできます。アプリケーションは開いたまま保持されますが、コンピュータはロックされます。

自動ログインの無効化

コンピュータの起動時にログインウィンドウが表示されない場合は、指定されたユーザーアカウントが自動的にログインするように設定されています。複数のユーザーでコンピュータを共有する場合は、ユーザーごとにアカウントを設定して自動ログインを無効にするのが最適です。別々のアカウントを使うことによって各ユーザーの情報が保護され、コンピュータがより安全になります。

重要：自動ログインでは再起動によってだれでも簡単にMacにアクセスできるので、コンピュータのセキュリティを保護するために自動ログインを無効にしてください。自動ログインが有効になっている場合は、コンピュータが管理者権限を持つアカウントに自動的にログインするように設定されていないことを確認してください。

自動ログインをオフにする

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「ユーザとグループ」をクリックします。
2. カギのアイコンをクリックしてロックを解除し、管理者名とパスワードを入力します。
3. 「ログインオプション」をクリックします。
4. 「自動ログイン」ポップアップメニューから「オフ」を選択します。

次にコンピュータを起動すると、ログインウィンドウが表示され、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。

システムのセキュリティ

セキュリティは、パスワードの設定とデータの暗号化だけではありません。OS Xは、システム自体を保護する別の方法をサポートします。FileVault 2は、起動ディスクの内容を暗号化します。ファームウェアパスワードを設定することによって、権限のないブートデバイスからOSレベルのセキュリティを迂回することができないようにします。ウイルス対策保護は、ネットワーク上のほかのオペレーティングシステムから入ってくるウイルスによってデータが脅威にさらされないようにします。

FileVault 2

FileVault 2を使って、起動ディスク上のファイルが表示されたりコピーされたりすることを防ぎます。FileVault 2のディスク暗号化によって、ディスクに格納された情報がエンコードされるため、ログインパスワードを入力しないとアクセスできません。

コンピュータ上に機密情報が保存されている場合は、FileVaultディスク暗号化の使用を検討してください。例えば、ノートブックコンピュータに会社のすべての財務情報を保存している場合、コンピュータを紛失するとだれかがこの機密情報にアクセスして、会社に損害を与える恐れがあります。コンピュータを紛失した際、アカウントからログアウトしていてデータが暗号化されていれば、情報は保護されます。

OS Xのディスク暗号化では、米国政府の承認を受けた暗号化規格、256ビットキーを使用したAdvanced Encryption Standard (AES-256) を使用しています。

FileVault 2を有効にすると、復旧キーが与えられます。管理者のログインパスワードを忘れた場合の保護策としてこの復旧キーを使用し、ディスクのロックを解除できます。

セキュリティの確実性を高めるために、FileVault 2を有効にすると、ほかのセキュリティ機能も有効になります。例えば、スリープ解除後のログイン、およびスクリーンセーバの終了時にパス

ワードの入力が必要になります。初回起動後は、FileVaultで有効にしたユーザーのみがログインできます。ほかのユーザーは最初に管理者にログインしてもらう必要があります。

警告：管理者パスワードを忘れないようにしてください。ディスク暗号化を有効にした後で、ログインパスワード、Apple ID、および復旧キーを忘れてしまった場合は、アカウントにログインできなくなり、ファイルや設定に一切アクセスできなくなります。

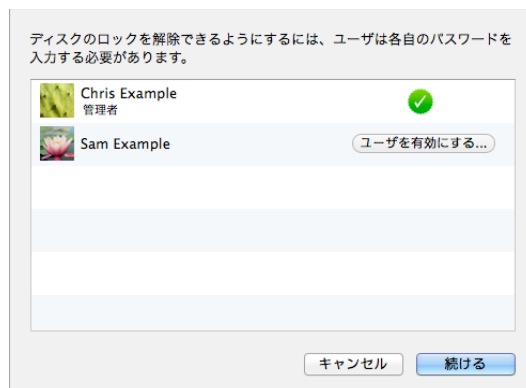
FileVault 2を設定する

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「セキュリティとプライバシー」の「FileVault」をクリックします。
2. カギのアイコンをクリックしてロックを解除し、管理者名とパスワードを入力します。



3. 「FileVaultを入にする」をクリックします。

コンピュータに複数のアカウントがある場合は、アカウントのリストが表示されます。



ユーザーを有効にして、コンピュータの起動後にログインを許可できます。ユーザーを有効にしない場合は、ユーザーがアカウントにログインする前に、管理者がログインする必要があります。

4. 有効にする各ユーザーで、ユーザー名の横にある「ユーザを有効にする」をクリックし、ユーザーのログインパスワードを入力して（またはユーザーに入力してもらい）「OK」をクリックします。
5. ユーザーアカウントを有効にし終わったら、「続ける」をクリックします。

パスワードを忘れた場合ディスクのロック解除に使用できる復旧キーが、ダイアログに表示されます。



6. 復旧キーをコピーして安全な場所に保存し、「続ける」をクリックします。
7. 復旧キーをAppleに保管するという、さらに強力な保護策を希望するかどうかを選択します。復旧キーをAppleに保管すると、Appleサポートに連絡して、選択した3つの質問に答えることでこれを回復できます。



- 復旧キーをAppleに保管する場合は、「復旧キーの保管をAppleに依頼」を選択して、3つの質問を選択して答えを入力します。Appleサポートに連絡する際、この質問をたずねられます。復旧キーのロック解除には回答が必要です。復旧キーはエンコードされているため、読み取ることとはできません。覚えやすい回答を選択してください。
 - 復旧キーをAppleに保管しない場合は、「復旧キーの保管をAppleに依頼しない」を選択します。
8. 「続ける」をクリックします。
 9. 「再起動」をクリックします。

再起動すると、暗号化が開始します。ディスク上に保存されている情報量によっては、ディスクの暗号化に時間がかかることがあります。ただし、ディスクの暗号化が実行されている間も、通常どおりコンピュータを使用できます。

ファームウェアパスワード

ファームウェアパスワードを設定して、Macの低レベルのハードウェア保護を有効にできます。ファームウェアパスワードは、権限のないユーザーが外付けハードディスク、光ディスク、USBフラッシュドライブからMacを起動できないようにします。

ファームウェアパスワードを設定する

1. CommandキーとRキーを同時に押しながらコンピュータを再起動して、「Recovery HD」パーティションから起動します。
2. OS Xのユーティリティウィンドウが表示されたら、「ユーティリティ」から「ファームウェアパスワードユーティリティ」を選択します。
3. 「ファームウェアパスワードを入にする」をクリックします。
4. 「パスワード」および「確認」フィールドにパスワードを入力します。
5. 「パスワードを設定」をクリックします。
6. 「ファームウェアパスワードユーティリティを終了」をクリックします。

シングルユーザーモードで起動して設定をテストできます。Optionキーを押しながらMacを再起動します。Macにカギのアイコンとパスワードを入力するフィールドが表示されたら、ファームウェアパスワードユーティリティによる変更が成功しています。先へ進むには、ファームウェアパスワードが必要です。

ファームウェアパスワードをリセットする

MacBook Air (Late 2010以降)、MacBook Pro (Early 2011以降)、iMac (Mid 2011以降)、およびMacBook Pro Retinaディスプレイモデルなど、新しいモデルのコンピュータのファームウェアパスワードを忘れた場合、リセットするにはMacをApple StoreまたはApple正規サービスプロバイダに持っていく必要があります。詳しくは、support.apple.com/kb/TS3554?viewlocale=ja_JPを参照してください。

それ以前のコンピュータで、忘れたファームウェアパスワードをリセットするには、Macの内部にアクセスする必要があります (WindowsパソコンのBIOSのパスワードをリセットするのにオンボードバッテリーを取り外す必要があるのと似ています)。

1. Macをシャットダウンします。
 2. RAMを追加または削除してメモリ構成を変更します。
 3. Macを起動します。
- これでファームウェアパスワードが解除されます。
4. Macをもう一度システム終了します。
 5. RAMを元の構成に戻します。
 6. Macを起動します。

ウイルス対策

OS Xには、ウイルスなどの悪意のあるアプリケーションやマルウェアなどからシステムを保護する何重もの防御システムが組み込まれ、ユーザーが特別な操作をする必要はほとんどありません。例えば、「サンドボックス」と呼ばれるテクノロジーを使って、ハッカーがプログラムに害を及ぼさないようにします。サンドボックスは、Macで実行できる動作やプログラム、外部からアクセスできるファイルや起動できるプログラムを制限します。

ほかにも、悪質なコマンドがターゲットを見つけるのを防ぐLibrary Randomization、Macのメモリを攻撃から守るExecute Disableなどの自動セキュリティ機能が用意されています。

OS Xのウイルスはほとんどありませんが、特にほかのオペレーティングシステムを使うコンピュータとファイルを交換する場合には、警戒した方がよいでしょう。Norton AntivirusやIntego VirusBarrierなどの市販のウイルス対策ソフトウェアは、ウイルスの転送を防ぐのに役立ちます。

Gatekeeper

Gatekeeperは、悪質なソフトウェアをMacにうっかりインストールしてしまうことを未然に防ぐことによって、アプリケーションのダウンロードの安全性を確保します。Gatekeeperには、Macにアプリケーションをダウンロードしてインストールする際のセキュリティオプションが3つ用意されています。Mac用のアプリケーションを最も安全にダウンロードできる場所はMac App Storeです。AppleはMac App Storeでの提供を許可する前にアプリケーションを一つ一つ審査しており、万が一問題が見つかった場合はストアからすばやく削除します。Gatekeeperは同様に、ウェブからのソフトウェアのダウンロードおよびインストールをより安全にします。

デベロッパはAppleから一意のDeveloper IDを取得して、アプリケーションの電子署名に使用します。GatekeeperはこのDeveloper IDを基に、アプリケーションが確認済みのデベロッパによって作成されたこと、アプリケーションが改ざんされていないことを確認します。アプリケーションがDeveloper IDを持たない未確認のデベロッパによって作成されている場合、Gatekeeperはそのアプリケーションのインストールをブロックして、Macを保護します。

許可済みのソフトウェアソースを設定する

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「セキュリティとプライバシー」の「一般」をクリックします。



2. 許可するソフトウェアソースを選択します。

- Mac App Storeからのアプリケーションのみを許可：アプリケーションは、Mac App Storeからのみダウンロードできます。AppleはMac App Storeのアプリケーションのデベロッパをすべて確認しており、アプリケーションを許可する前に一つ一つ審査しています。Mac App Storeからアプリケーションをダウンロードすると、初めてアプリケーションを開く前にOS Xがアプリケーションを確認して、アプリケーションのリリース後に改ざんされていないことを確認します。万が一アプリケーションに問題が見つかった場合は、AppleがMac App Storeから削除します。
- Mac App Storeと確認済みのデベロッパからのアプリケーションを許可：Mac App Storeのアプリケーションと、確認されたデベロッパのアプリケーションをダウンロードできます。Mac App Store以外のアプリケーションは審査されていませんが、確認済みのデベロッパはAppleに登録されています。アプリケーションに問題が発生した場合は、Appleは承認を無効にすることができます。初めてアプリケーションを開く前にOS Xがアプリケーションを確認して、アプリケーションのリリース後に改ざんされていないことを確認します。
- すべてのアプリケーションを許可：すべてのアプリケーションをダウンロードできます。この設定ではGatekeeperが無効となります。OS Xはアプリケーションのソースや、アプリケーションが改ざんされているか破損しているかを確認しないため、これは最低のセキュリティ設定です。

アプリケーションのほか、その他のファイルタイプも安全ではない可能性があります。スクリプト、ウェブアーカイブ、Javaアーカイブがシステムを損傷する場合があります。こうしたファイルは、初めて開く時に警告が表示されます。こうしたファイルが必ずしも危険であるとは限りませんが、ダウンロードしたファイルを開く際には注意が必要です。

Gatekeeperによってブロックされたアプリケーションを開くには、Controlキーを押しながらアプリケーションをクリックし、ショートカットメニューから「開く」を選択して「開く」をクリックします。

一度開いたアプリケーションは、セキュリティ設定で例外とみなされるため、ダブルクリックして開くことができます。

ネットワークのセキュリティ

ユーザーアカウントおよびシステムのセキュリティのほかに、ネットワークのセキュリティも組織にとって非常に重要です。OS Xファイアウォールは、ローカルネットワークおよびインターネットの両方で、不正アクセスからMacを保護します。仮想プライベートネットワーク（VPN）サービスは、コンピュータがリモートでネットワークにアクセスできるセキュリティ保護された方法を提供します。

OS Xファイアウォール

OS Xのパーソナルファイアウォールを使って、コンピュータへの不正なアクセスをブロックできます。ファイアウォールは、ネットワークまたはインターネット上のほかのコンピュータから、コンピュータ上のサービスを保護します。ほかのコンピュータが接続できるサービスのリストに、「共有」環境設定がオンになっているサービスが表示されます。これらのサービスからアクセスできないようにするには、「共有」環境設定でサービスをオフにする必要があります。

OS Xファイアウォールを有効にする

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「セキュリティとプライバシー」の「ファイアウォール」をクリックします。
2. カギのアイコンをクリックしてロックを解除し、管理者名とパスワードを入力します。

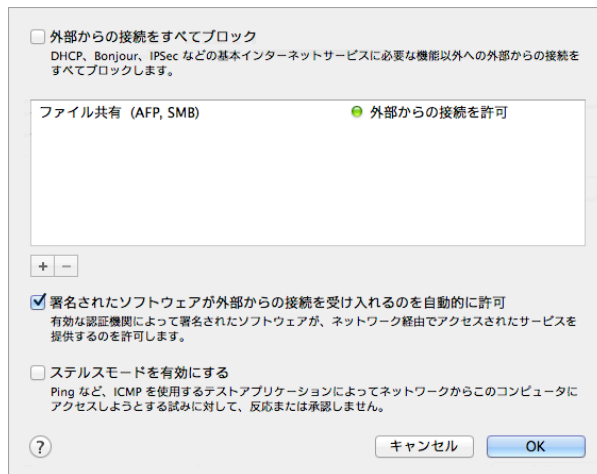


3. 「ファイアウォールを入にする」をクリックしてファイアウォールを有効にします。



ファイアウォールの詳細オプションを設定する

1. 「セキュリティとプライバシー」環境設定の「ファイアウォール」ペインで「ファイアウォールオプション」をクリックします。



2. 3つのファイアウォールオプションから選択できます。

- ・「外部からの接続をすべてブロック」チェックボックスをオンにすると、基本インターネット機能についてのみ受信接続が許可されます。このモードでもEメールをチェックしたりウェブをブラウズしたりできますが、システム環境設定の「共有」ペインにあるファイル共有や画面共有などのすべての共有サービスで接続を受け入れられなくなります。共有サービスを利用する場合は、このオプションの選択を解除してください。

- ・「署名されたソフトウェアが外部からの接続を受け入れるのを自動的に許可」チェックボックスをオンにすると、有効な証明機関によって署名されたアプリケーションが、許可されるアプリケーションのリストに自動的に追加され、認証を求められません。例えば、iTunesはAppleによって署名されているので、ファイアウォールを通して受信接続が受信されるように自動的に許可されます。
- ・「ステルスモードを有効にする」チェックボックスをオンにすると、権限のないまたは予期しない接続試行に対してMacからの応答を送信しないようにします。承認されたアプリケーションについては要求の受信に応答しますが、Macの検出を試みるためにほかのコンピュータから送信されたPingなどの予期しない要求に対しては応答しません。

3. 詳細設定が完了したら「OK」をクリックします。

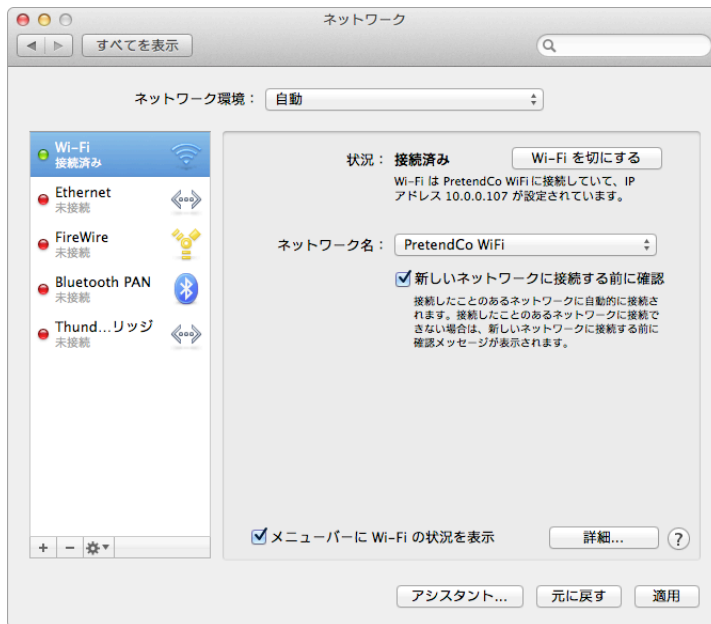
Macに組み込まれたファイアウォールサービスを設定し、受信接続のセキュリティが強化されました。

仮想プライベートネットワーク

仮想プライベートネットワーク（VPN）アクセスは、離れた場所にいるユーザーもネットワークサービスを利用できると同時に、無許可のアクセスを防止できます。OS Xは標準規格に基づくL2TP over IPSec、PPTP、Cisco IPSecに対応しており、内蔵のVPNクライアントで暗号化されたVPN接続を提供します。VPNに接続するには、VPNサーバアドレス、VPNタイプ、VPNアカウント名、およびユーザー認証情報をネットワーク管理者から入手する必要があります。

VPN接続を設定する

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「ネットワーク」をクリックします。



2. ネットワーク接続サービスのリストの下にある追加 (+) ボタンをクリックし、「インターフェイス」ポップアップメニューから「VPN」を選択します。

インターフェイスを選択し、新しいサービスの名前を入力してください。

インターフェイス: VPN

VPN タイプ: L2TP over IPSec

サービス名: VPN (L2TP)

キャンセル 作成

3. 「VPNタイプ」ポップアップメニューから設定したいVPN接続の種類を選択し、VPNサービスに名前を付けます。

✓ L2TP over IPSec

PPTP

Cisco IPSec

4. 「作成」をクリックします。
5. VPN接続に使用するサーバアドレスおよびアカウント名を入力します。

ネットワーク

すべてを表示

ネットワーク環境: 自動

Wi-Fi 接続済み

Ethernet 未接続

FireWire 未接続

Bluetooth PAN 未接続

Thunderbolt 未接続

Pretendco VPN 未構成

状況: 未構成

構成: デフォルト

サーバアドレス: 127.215.104.50

アカウント名: PretendCo VPN

認証設定...

接続

☐ メニューバーに VPN の状況を表示

詳細... ?

アシスタント... 元に戻す 適用

6. 「認証設定」をクリックし、ユーザーおよびコンピュータの認証情報を入力します。

ユーザ認証：

☒ パスワード：

☐ RSA SecurID

☐ 証明書

☐ Kerberos

☐ CryptoCard

コンピュータ認証：

☒ 共有シークレット：

☐ 証明書

グループ名：

(オプション)

7. 「OK」をクリックして「接続」をクリックします。

8. 「接続」をクリックします。

ネットワーク

すべてを表示

ネットワーク環境： 自動

Wi-Fi 接続済み

Ethernet 未接続

FireWire 未接続

Bluetooth PAN 未接続

Thunderbolt 未接続


Pretendco VPN 接続中...

状況： 接続中...

構成： デフォルト

サーバアドレス： 127.215.104.50

アカウント名： PretendCo VPN



☐ メニューバーに VPN の状況を表示

9. 「メニューバーにVPNの状況を表示」を選択して、VPNの状況アイコンを使ってネットワークに接続し、VPNサービスを切り替えます。



VPNにアクセスできるようにMacを設定し、強力なセキュリティを保持しながら組織のネットワークにリモートで接続できるようになりました。

まとめ

この章では、ユーザーデータレベル、システムレベル、ネットワークレベルでMacのセキュリティを保護する手順を学習しました。このセクションで学習したことに基づいて、次のタスクを実行してください。

- 強力なパスワードを使ってMacのユーザーアカウントのセキュリティを向上します。
- FileVault 2を設定し、ディスク上のデータへの不正なアクセスを防止します。
- ファームウェアパスワードを設定し、低レベルでシステムを保護します。
- OS Xファイアウォールを設定し、ほかのコンピュータからサービスおよびデータへのネットワークアクセスを制限します。
- Macを設定し、VPNサービスを使って安全にリモートネットワークにアクセスします。

OS Xでは、ローカルプリンタにすばやく接続して共有できるほか、ネットワーク上のリモートプリンタも使うことができます。MacコンピュータはWindowsコンピュータと互いにプリントリソースを共有できるため、マルチプラットフォームでプリンタに簡単にアクセスできます。

この章では、Macを設定して、ローカルに接続されたプリンタにプリントする方法を学習します。次に、Windowsおよびその他のネットワークユーザーとプリンタを共有する方法を学習します。最後に、Macを設定して、様々な一般的なプリンタプロトコルでネットワークプリンタに接続する方法、およびネットワークプリンタを最適化する方法を学習します。

USBプリンタへの接続

USBプリンタにプリントするには、まずプリンタがコンピュータに接続されていることを確認し、利用可能なプリンタのリストに追加する必要があります。多くのUSBプリンタの場合、プリンタを接続すると自動的にリストに追加されます。

USBプリンタをプリンタのリストに追加する

1. プリンタに付属のマニュアルに従ってプリンタを設定し、コンピュータに接続します。
2. アップルメニューから「ソフトウェア・アップデート」を選択して、OS XにAppleからダウンロード可能なプリンタソフトウェアの最新情報があることを確認します。

プリンタを追加すると、OS Xは使用可能なプリンタソフトウェアのリストをアップデートし、必要なソフトウェアをダウンロードします。

3. プリントする書類を開き、「ファイル」メニューから「プリント」を選択します。
4. 「プリンタ」ポップアップメニューを開き、プリンタを選択します。

プリンタが表示されない場合は、プリンタのメーカーに詳細を問い合わせます。

ワイヤレスでプリントするためのプリンタの設定

プリンタにBluetoothまたはWi-Fiが内蔵されている場合は、ワイヤレスでプリントできます。

内蔵Wi-Fiを使ってプリンタを設定する

1. プリンタに付属のマニュアルに従ってプリンタを設定し、Wi-Fiネットワークに接続します。
2. アップルメニューから「ソフトウェア・アップデート」を選択して、OS XにAppleからダウンロード可能なプリンタソフトウェアの最新情報があることを確認します。

プリンタを追加すると、OS Xは使用可能なプリンタソフトウェアのリストをアップデートし、必要なソフトウェアをダウンロードします。

3. プリントする書類を開き、「ファイル」メニューから「プリント」を選択します。
4. 「プリンタ」ポップアップメニューを開き、「近くのプリンタ」でプリンタを選択します。

Bluetoothプリンタを設定する

1. プリンタに付属のマニュアルに従ってプリンタを設定します。
2. アップルメニューから「ソフトウェア・アップデート」を選択して、OS XにAppleからダウンロード可能なプリンタソフトウェアの最新情報があることを確認します。

プリンタを追加すると、OS Xは使用可能なプリンタソフトウェアのリストをアップデートし、必要なソフトウェアをダウンロードします。

3. プリントする書類を開き、「ファイル」メニューから「プリント」を選択します。
4. 「プリンタ」ポップアップメニューを開き、「プリンタを追加」を選択します。
5. Bluetoothプリンタを選択して、「追加」をクリックします。

プリンタがリストに表示されない場合は、コンピュータでBluetoothが有効になっていない可能性があります。「Bluetooth」環境設定で有効にできます。

ネットワークプリンタへのプリント

ローカルプリンタに接続するだけでなく、OS Xは簡単に一般的なネットワークプリンタに接続できます。Bonjour (OS X自動ネットワーク検出機能)、IP、Open Directoryを使用するローカルネットワーク上のプリンタ、および共有プリンタに接続できます。

重要：スキャナが付属するプリンタをローカルネットワークに接続すると、スキャナベッドにあるものがローカルネットワーク上のほかのコンピュータに表示されます。機密情報が含まれる書類をスキャンする場合は、コンピュータのUSBポートにスキャナを接続してください。

1. プリンタを設定する場合は、プリンタに付属のマニュアルに従って設定し、ネットワークに接続します。
2. アップルメニューから「ソフトウェア・アップデート」を選択して、OS XにAppleからダウンロード可能なプリンタソフトウェアの最新情報があることを確認します。

プリンタを追加すると、OS Xは使用可能なプリンタソフトウェアのリストをアップデートし、必要なソフトウェアをダウンロードします。

3. プリントする書類を開き、「ファイル」メニューから「プリント」を選択します。
4. 「プリンタ」ポップアップメニューを開き、「近くのプリンタ」でプリンタを選択します。
5. プリンタが表示されない場合は、「プリンタ」ポップアップメニューから「プリンタを追加」を選択します。
ダイアログに、ローカルネットワーク上のBonjour、IP、共有、Open Directoryプリンタが表示されます。プリンタが表示されるまで数分かかることがあります。
6. リストにプリンタが表示されたらプリンタを選択して「追加」をクリックします。
プリンタがAirPrintに対応する場合、OS Xは自動的にAirPrintを使用します。対応しない場合は、必要に応じてAppleからプリンタソフトウェア（プリンタドライバ）をダウンロードします。

リストにプリンタが表示されない場合は、「SMB/CIFSを使ってWindowsコンピュータのプリンタ共有を設定する」セクションまたは「IPを設定する」セクションを確認してください。

コンピュータは通常、追加の用紙トレイ、追加メモリ、両面プリント機能など、プリンタに特殊なアクセサリがあるかどうかを検出します。検出されない場合は、表示されるダイアログでこれを指定できます。アクセサリの機能を最大限に活用できるよう、このダイアログに、プリンタに取り付けられているアクセサリの情報が正しく入力されていることを確認します。

SMB/CIFSを使ってWindowsコンピュータとのプリンタ共有を設定する

WindowsコンピュータがSMB/CIFSをサポートしていれば、Windowsに接続されたプリンタにもプリントできます。プリンタの所有者が共有を設定し、プリンタ名およびコンピュータ名には次の文字だけを使う必要があります。A-Z、a-z、0-9、!、\$、*、(、)、_、+、-、'、および、(ピリオド)。

Windowsコンピュータで共有されているプリンタにプリントする

利用可能なプリンタのリストにSMB/CIFSプリンタを追加するには、プリンタのワークグループがわかっている必要があります。また、プリンタのユーザー名とパスワードも必要です。

1. プリントする書類を開き、「ファイル」メニューから「プリント」を選択します。
2. 「プリンタ」ポップアップメニューから「プリンタを追加」を選択し、「Windows」をクリックします。
ネットワークブラウザに、ネットワーク上のWindowsワークグループが表示されます。
3. ネットワークブラウザからプリンタを選択します。

ブラウザでプリンタを見つけるには、ワークグループをクリックしてからプリントサーバ（プリンタを共有しているコンピュータ）をクリックします。プロンプトが表示されたら、プリンタのユーザー名とパスワードを入力します。
4. 「ドライバ」ポップアップメニューから、共有プリンタに適切なプリンタソフトウェアを選択します。

追加するプリンタの正しいモデルを必ず選択してください。詳しくは、プリンタに付属のマニュアルを参照してください。HP PCLと互換性のあるプリンタがリストに表示されていない場合は、お使いのプリンタに最も近いプリンタモデルを選択します。

5. 「追加」をクリックします。

目的のWindowsプリンタを追加できない場合は、Macで利用できるプリンタソフトウェアがSMB/CIFSを使ったプリントに対応していない可能性があります。Macでプリンタソフトウェアをアップデートするか、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

IPプリンタの設定

使用したいネットワークプリンタが使用可能なプリンタの一覧に表示されない場合は、IPプリンタとしてプリンタを追加できます。プリンタがInternet Printing Protocol (IPP)、Line Printer Daemon (LPD)、またはHP Jetdirect (Socket) のいずれかをサポートする必要があります。

Windowsコンピュータで共有されているプリンタにプリントする

ネットワークプリンタのIPアドレスまたはホスト名、プリントプロトコル、機種番号またはプリンタソフトウェア名が必要です。プリンタが特別なキューを使用する場合は、キュー名も必要です。詳細については、プリンタまたはサーバの管理者に問い合わせてください。

プリントする前に、アップルメニューから「ソフトウェア・アップデート」を選択して、OS XにAppleからダウンロード可能なプリンタソフトウェアの最新情報があることを確認します。プリンタがネットワークに接続され、プリントの準備ができていることを確認します。

IPプリンタを追加するには、プリントする書類を開き、「ファイル」メニューから「プリント」を選択します。「プリンタ」ポップアップメニューから「プリンタを追加」を選択し、「IP」をクリックし、下表を参照してプリンタ情報を入力します。

オプション	説明
アドレス	プリンタのIPアドレス（192.168.20.11のような数字）またはホスト名（例：printer.example.com）を入力します。
プロトコル	このポップアップメニューから、プリンタが対応するプリントプロトコルを選択します。 <ul style="list-style-type: none">• Internet Printing Protocol (IPP)：最新のプリンタとプリントサーバで使用されています。• Line Printer Daemon (LPD)：従来のプリンタとプリントサーバで使用されている可能性があります。• HP Jetdirect (Socket)：HPとそれ以外の多数のプリンタメーカーで使用されています。
キュー	プリンタで入力が必要される場合は、プリンタのキュー名を入力します。キュー名がわからない場合は、空白のままにするか、ネットワーク管理者に問い合わせます。
名前	「プリンタ」ポップアップメニューで識別できるように、プリンタのわかりやすい名前（例：カラーレーザープリンタ）を入力します。

場所	「プリンタ」ポップアップメニューで識別できるように、プリンタの場所（例：オフィスの外）を入力します。
ドライバ	<p>プリンタに適切なプリンタソフトウェアがこのポップアップメニューに表示されない場合は、「プリンタソフトウェアを選択」を選択してから、「プリンタソフトウェア」リストからプリンタを選択します。</p> <p>このリストに目的のプリンタが含まれていない場合は、プリンタのメーカーからプリンタソフトウェア（プリンタドライバとも呼ばれます）をダウンロードしてインストールします。また、ポップアップメニューから汎用プリンタソフトウェアを選択することもできます。</p>

プリンタの機能の指定

プリンタをプリンタのリストに追加した時にプリンタのオプションが適切に検出されない場合は、自分でオプションを指定できます。または、プリンタをプリンタのリストに追加した後にプリンタ機能を追加または変更した場合は、オプションをアップデートする必要がある場合があります。

例えば、プリンタの両面プリント機能が検出されないために、両面印刷オプションが「プリント」ダイアログに表示されないことがあります。または、1台のプリンタから別のプリンタへ追加の用紙トレイを移動したために、プリンタがその変更を検出できないことがあります。

注意：プリンタがAirPrintに対応する場合、プリンタの機能は自動的に特定されます。これらの機能をオン/オフにすることはできません。

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「プリンタとスキャナ」をクリックします。
2. 左側のリストからプリンタを選択します。
3. 「オプションとサプライ」をクリックして、「ドライバ」をクリックします。
4. プリントする際に表示するオプションを選択します。

プリンタの共有

Macに接続されているプリンタを、別のMacまたはUNIXコンピュータと共有できます。共有するコンピュータがMacと同じローカルネットワーク上にあること、MacにOS X v10.4以降が搭載されていることが必要です。Windowsコンピュータとプリンタを共有することはできません。

プリンタ共有は、Macに直接接続されているプリンタで可能です。ネットワークプリンタはネットワーク上ですでに共有されているため、共有する必要はありません。

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「共有」をクリックします。
2. 「プリンタ共有」チェックボックスが選択されていない場合は、これを選択します。
3. 「プリンタ」で共有したいプリンタを選択します。

プリンタを共有すると、ネットワーク上のすべてのユーザー（全員）がデフォルトでそのプリンタを使用できます。特定のユーザーだけにアクセスを制限したい場合は、手順4～5に進んでください。

4. 「ユーザ」リストの下部にある追加 (+) ボタンをクリックしてから、次のいずれかを行います。
 - Macのすべてのユーザーを含む「ユーザとグループ」からユーザーを選択します。
 - ネットワーク上のユーザー全員を含む「ネットワークユーザ」または「ネットワークグループ」からユーザーを選択します。
 - 連絡先からメンバーを選択します。メンバーにパスワードを作成して「アカウントを作成」をクリックします。
 - 「新規メンバー」をクリックします。メンバーの名前とパスワードを入力し、「アカウントを作成」をクリックして、「ユーザとグループ」からメンバーを選択します。
5. 「ユーザ」リストにメンバーを追加すると、ネットワーク上のユーザー（全員）の共有プリンタへのアクセスが「アクセス不可」にリセットされます。「全員」にアクセスを許可する場合は、三角形をクリックして「プリント可能」をクリックします。

ユーザーを削除するには、ユーザー名を選択して削除 (-) ボタンをクリックします。「全員」は削除できません。

まとめ

この章では、Macをローカルプリンタおよびネットワークプリンタと併せて使用する様々な方法を学習しました。OS Xは多くのプリンタに完全に対応しています。通常はUSBプリンタをMacに接続するだけで追加できます。Windowsプリンタなどの共有ネットワークプリンタも、直感的な方法で簡単に接続できます。WindowsユーザーはOS Xに組み込まれているプリンタ共有機能を使って、ネットワークを介してMacと共有するUSBプリンタにプリントできます。このセクションで学習したことに基づいて、次のタスクを実行してください。

- Macを設定してUSBプリンタにプリントします。
- Macを設定してネットワークプリンタまたはWindowsプリンタにプリントします。
- ネットワーク上のユーザーとローカルプリンタを共有します。

組織では、ローカルおよびリモートのチームメンバーとリーダーが互いに連絡を取るのにインスタントメッセージングが使用されます。メッセージは、Mac OS Xのインスタントメッセージングアプリケーションで、iMessage、AIM、Jabber、Yahoo!、およびGoogleトークアカウントに対応しています。同僚にインスタントメッセージを送信すると、ほとんど瞬時に相手の画面のウィンドウにメッセージが表示され、すぐに返事をもらうことができます。メッセージでは、インターネットやローカルネットワークを使って相手にファイルを送信できます。また、オーディオチャットやビデオチャットを設定し、世界中の同僚と連絡を取り合うことができます。

この章では、メッセージとAIM、Jabber、Googleトーク、Yahoo!アカウントを使ったインスタントメッセージングをMacで設定する方法について学習します。

iMessageとiOSデバイスについて

iMessageは、Mac、iPhone、iPad、iPod touchでメッセージの送受信を可能にする安全なメッセージングサービスです。友達がオンラインになるのを待つ必要はありません。メッセージを送信すると、相手がモバイルデバイス上でメッセージを受信するか、次回Macでメッセージを開く時に表示されます。

だれかからiMessageを受信すると、iOS 5.0以降が搭載され、同じEメールアドレスを使用するよう設定されているすべてのモバイルデバイスにメッセージが受信されます。iMessageの会話を表示する時は、Macまたはモバイルデバイスで送信したすべてのメッセージが表示されるため、どこにいても友達と会話を楽しむことができます。

メンバーの名前ではなく、電話番号やEメールアドレスを使ってメッセージを送信できます。連絡先に連絡先情報が入力されている場合は、名前を入力してからメッセージの送信先の電話番号またはEメールアドレスを選択できます。

iMessageでメッセージを使用するにはApple IDが必要です。iTunesアカウントまたはiCloudアカウントがある場合はApple IDも持っていることになります。Apple IDがない場合は、メッセージを使って新たに作成できます。

Jabberアカウントについて

メッセージはExtensible Messaging and Presence Protocol(XMPP) (Jabberとも呼ばれます)に対応しているので、様々なメッセージングサービスと直接やり取りできます。また、組織のネットワークでメッセージユーザーの相手を自動的に検出するBonjourにも対応しています。メッセージはH.264/AVCコーデックをサポートするので、高画質のビデオチャットもできます。

Jabberアカウントを使用する相手にメッセージを送信するには、Jabberアカウントが必要です。

Jabberアカウントは、Jabberサービスプロバイダから、または使用可能なJabberサーバのある会社や組織から取得できます。例えば、OS X Serverには、Jabberテクノロジーを基にしたメッセージサーバが付属します。

Jabberアカウントを設定したら、メッセージを設定して、ほかのJabberユーザーと1対1のチャットおよび複数ユーザーとのチャットに使用できます。オーディオチャット、ビデオチャット、画面共有に対応したハードウェアとソフトウェアを使用しているJabberユーザーとは、オーディオチャット、ビデオチャット、画面共有を行うこともできます。

Jabberアカウントのサービスプロバイダがサーバ間フェデレーションに対応したメッセージングネットワークを使用する場合は、別のJabberユーザーのサービスプロバイダもサーバ間フェデレーションに対応したネットワークを使用していれば、そのJabberユーザーにメッセージを送信できます。このようなJabberユーザーは、Jabberアカウントのメンバーリストに追加することもできます。

例えばGoogleトークはサーバ間フェデレーションに対応したJabberベースのサービスなので、自分のJabberサービスがフェデレーションを使用する場合は、Googleトークの登録者とチャットでき、Jabberアカウントのメンバーリストにこの登録者を追加できます。

メッセージの設定

メッセージを使用する前に、サービスプロバイダアカウントの情報を入力する必要があります。メッセージには、新規チャットアカウントを追加するためのアシスタントが表示されます。メッセージを初めて起動するか、メッセージの環境設定で新規アカウントを追加すると、メッセージのアシスタントが表示されます。

最初のメッセージアカウントの設定

初めてメッセージを開くと、iMessageのダイアログが表示されます。そこで、Apple IDを入力すると、AppleのiMessageサービスを使用できます。iMessageを使用しない場合は、「今はしない」をクリックしてこの手順をスキップできます。

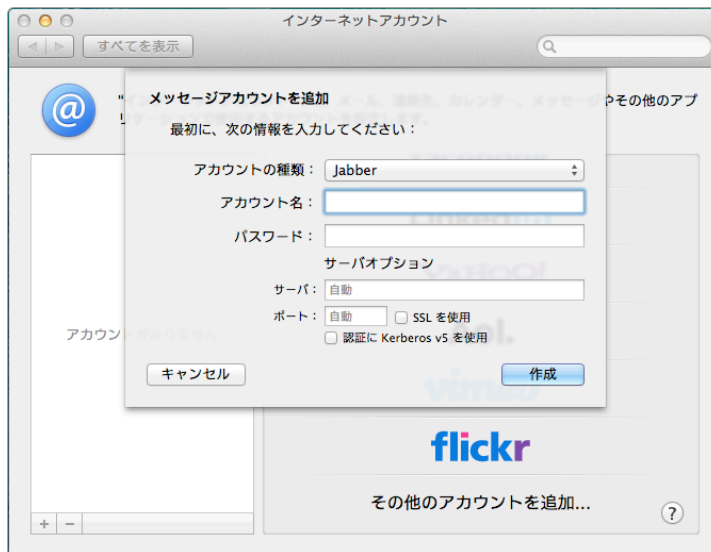
次に、Google、Yahoo!、AOLなどのアカウントを追加するプロンプトがアシスタントに表示されます。インスタントメッセージアカウントを使用しない場合は「キャンセル」をクリックしてこの手順をスキップします。

アカウントの追加

まず、既存のアカウントに関する情報を用意します。

Google、Yahoo!、またはAOLのアカウントの情報を入手したり、これらのサービスにサインアップしたりするには、各サービスのウェブサイトにアクセスします。Jabberアカウントが必要な場合は、使用するJabberサーバの管理者に問い合わせてください。

メッセージ、またはシステム環境設定の「インターネットアカウント」ペインにメッセージアカウントの情報を入力できます。



iMessageを設定する

1. 「メッセージ」>「環境設定」の順に選択し、「アカウント」をクリックして、「アカウント」リストで「iMessage」を選択します。
2. Apple IDとパスワードを入力し、「サインイン」をクリックします。

Apple IDがない場合は、「Apple IDを作成」をクリックして、必要な情報を入力してから「Apple IDを作成」をクリックします。

3. 「メッセージの着信に使用するメールアドレス」リストに、メッセージを受信するEメールアドレスを入力します。

Apple IDに関連付けられていないEメールアドレスを入力すると、そのEメールアドレスに確認のEメールが送信されます。そのEメールアドレスに送信されたメッセージを「メッセージ」で受信するには、確認のEメールで「今すぐ確認」をクリックする必要があります。未確認のEメールアドレスにはすべて「検証中」というマークが付きます。

1つのEメールアドレスを、一度に1つのApple IDと関連付けることができます。別のApple IDに関連付けられているEメールアドレスを関連付けたい場合は、そのApple IDを使ってログインし、Eメールアドレスを削除してからもう一方のApple IDに追加します。

4. サインインすると、次の操作を行うことができます。

- iMessageの送受信を有効にする：「このアカウントを有効にする」を選択します。
- Apple IDのアカウント情報を表示する：「詳細」をクリックして、Apple IDとパスワードを入力し、「アカウントを表示」をクリックします。
- 着信に使用するEメールアドレスと電話番号を設定する：「メールを追加」をクリックして、Eメールアドレスまたは電話番号を入力します。メッセージの受信に使用するEメールアドレスと電話番号を選択します。

Apple IDに新しいEメールアドレスを追加する場合は、確認のためのEメールがそのアドレスに送信されます。Eメールの手順に従うと、そのアドレスをメッセージで使用できるようになります。

電話番号がApple IDに関連付けられている場合は、自動的にリストに追加されます。例えば、Apple IDを使ってiPhoneを設定すると、電話番号がApple IDに関連付けられます。

- 開封証明を有効にする：「開封証明を送信」を選択します。
開封証明を有効にすると、メッセージが開封された時に、メッセージの送信元に開封証明が送信されます。
- サインアウトする：「サインアウト」をクリックします。

ほかのアカウントを設定する

1. 「メッセージ」>「アカウントを追加」の順にクリックします。
2. 使いたいアカウントの種類を選択します。Jabberアカウントを使いたい場合は、「その他のメッセージアカウント」を選択して、「続ける」をクリックし、「アカウントの種類」ポップアップメニューからJabberを選択します。
3. アカウント情報を入力します。
 - AIM：AIMユーザー名（例：dbecker3）、またはme.comまたはMac.comの完全なEメールアドレス（例：dbecker3@me.comまたはdbecker3@mac.com）とパスワードを入力します。
 - Jabber：Jabberアカウント名（例：dbecker@jabber.org）とパスワードを入力します。
Jabberサービスプロバイダから特定のサーバ情報が提供された場合は、「サーバオプション」の下に情報を入力します。
 - Googleトーク：Googleトークアカウント名（例：dbecker3@gmail.com）とパスワードを入力します。
 - Yahoo!：Yahoo!ユーザー名（例：dbecker）とパスワードを入力します。
4. 「作成」をクリックします。

メッセージがメッセージサービスに接続し、連絡先でAIMまたはメッセージアカウントを持つ連絡先が「メンバー」リストに表示されます。AIMまたはメッセージアカウントを持つ連絡先がない場合、「メンバー」リストは空白になります。

ローカルネットワーク上でのチャット

Bonjourを使うと、メッセージアカウントまたはサーバを使わずに、ローカルネットワーク上のほかのメッセージユーザーにメッセージを送信できます。Bonjourを使う場合、コンピュータ同士が直接通信します。

重要： Bonjourを使ってメッセージを送信する前に、相手の情報を確認してください。Bonjourウィンドウに表示される名前は、連絡先アプリケーションの「自分」カードの情報に基づいており、相手の実際の名前と一致しない場合があります。自分のBonjour名はメンバーリストの上部に表示されます。

- メッセージを送信する際に、「宛先」フィールドに名前を入力する場合は、相手のBonjour名を選択してBonjourを使ってメッセージを送信します。
- Bonjourのメンバーリストで名前をダブルクリックしてメッセージを送信します。
Bonjourのメンバーリストが表示されない場合は、「ウインドウ」メニューから「メッセージのメンバー」または「Bonjourリスト」を選択します。1つのメンバーリストにすべてのメンバーが表示されている場合、Bonjourユーザーはリストの「Bonjour」の下に表示されます。

Bonjourメッセージングをオフにするには、「メッセージ」>「環境設定」の順に選択し、「アカウント」をクリックして「Bonjour」を選択してから、「Bonjourインスタントメッセージングを有効にする」の選択を解除します。

Point-to-Point Protocol (PPP) またはPoint-to-Point Protocol over Ethernet (PPPoE) を使ってインターネットに接続する場合、ほかのBonjourユーザーは表示されません。ケーブルモデムで一般的な共有ネットワークセグメントを介して接続する場合は、ほかのメッセージユーザーが表示されることがあります。

コンピュータがファイアウォールで保護されている場合は、ほかのBonjourユーザーからメッセージを受信できない可能性があります。Bonjourを使用するには、ポート5298でアクティビティを許可するようファイアウォール設定を変更する必要があります。

Bonjourの使用で問題がある場合は、ネットワーク管理者がネットワーク設定を調整できます。

まとめ

この章では、同僚とすぐに連絡が取れるように、Macでインスタントメッセージングを使用する方法を学習しました。メッセージはAIM、Googleトーク、Yahoo!、Jabberなどの主なメッセージングサービスをサポートします。OS Xはメッセージングを包括的にサポートするので、同僚が使用するオペレーティングシステムやメッセージングサービスに関係なく、すぐに連絡を取ることができます。

このセクションで学習したことに基づいて、次のタスクを実行してください。

- メッセージを設定して、iPhone、iPad、iPod touch、MacおよびWindowsパソコンのユーザーにメッセージを送信します。
- メッセージを設定して、AIM、Jabber、Googleトーク、Yahoo!で使います。
- メッセージを使用して、ローカルネットワーク上のほかのメッセージユーザーにメッセージを送信します。

WindowsパソコンからMacに移行する場合、多くのファイルを転送して以前と同じように使うことができます。テキスト、PDF書類、画像、オーディオ、ビデオファイルなどの一般的なWindowsファイルフォーマットは、OS Xで簡単に開くことができます。最初の手順として、WindowsコンピュータからMacにファイルを移行します。

データを移行するだけでなく、データを保護することも重要です。システムを定期的にバックアップし、重要なファイルについてはバックアップを複数保持する必要があります。組織によって、特定のバックアップポリシーに従わなければならない場合もありますが、組織のポリシーがない場合でも、個人的にバックアップを作成することをおすすめします。

この章では、Windowsのデータを様々な方法でMacに移行する方法を学習します。次に、重要なデータが失われないように保護するために、バックアップ計画を立てる方法を学習します。

WindowsからMacへのデータの移行

ネットワーク経由で、移行アシスタントを使ってMacとWindowsパソコンを接続できます。ファイルが少数の場合は、Windows/パソコンから外付けメディアまたはリムーバブルストレージメディアにファイルをコピーし、Macでこのメディアを使用できます。また、インターネットでEメールを使ってWindowsファイルをMacに送信することもできます。

移行アシスタントを使ってWindowsパソコンから情報を転送する

移行アシスタントを使って、すべての写真、音楽、ファイルを含むユーザーアカウントをWindowsパソコンからMacに転送できます。Macの初回設定時にMacに情報を転送しなかった場合は、移行アシスタントを使っていつでも情報を転送できます。

情報を転送する

有線ネットワークまたはワイヤレスネットワーク経由で情報を転送できます。2台のコンピュータが同じネットワークに接続していることを確認してください。

1. Windowsパソコンで、[Appleのサポートページの「ダウンロード」](#)から、Windows移行アシスタントをダウンロードします。
2. Windows移行アシスタントをインストールして開きます。
3. 「続ける」をクリックします。
4. Macで「ユーティリティ」フォルダにある移行アシスタントを開きます。開くには、Finderで「移動」>「ユーティリティ」の順に選択するか、Shiftキー、Commandキー、Uキー（⇧⌘U）を同時に押します。移行アシスタントをダブルクリックします。
5. 「別のMac、PC、Time Machineバックアップ、または他のディスクから」を選択して、「続ける」をクリックします。
6. 管理者の名前とパスワードを求められたら入力します。
7. 移行の方法として「別のMacまたはPCから」を選択し、「続ける」をクリックします。
8. ほかのアプリケーションの終了を求めるメッセージが表示されたら、「続ける」をクリックしてほかのアプリケーションを終了します。

移行プロセス中は、Macでほかのアプリケーションを開いたままにしておくことはできません。

9. Windowsパソコンを選択して、Macに表示されるパスコードがWindowsパソコンにも表示されるまで待ちます。
10. Windowsパソコンで、Macに表示されているパスコードが表示されたら、続けるをクリックして続行します。
11. MacとWindowsパソコンに同じパスコードが表示されていることを確認したら、Macで転送したい情報を選択します。

ユーザーの写真、ムービー、音楽、書類、ダウンロード項目、（POPおよびiMAPアカウントからの）Eメールメッセージ、連絡先、カレンダー、購入したiOS用のアプリケーション、ブックマークしたウェブサイト、設定のすべてを含むユーザーアカウントを転送するには、ユーザー名の横にあるチェックボックスを選択します。

- ・「設定」チェックボックスを（ユーザーアカウントで）選択すると、デスクトップピクチャ、言語、位置情報が転送されます。ネットワーク設定とパスワードは転送されません。
- ・POPのEメールアカウントでは、移行アシスタントは、Windows VistaおよびWindows 7のWindowsメールとWindows Live MailのEメールメッセージ、およびログインしているユーザーアカウントのWindows XPのMicrosoft Outlook ExpressとOutlook、Windows VistaのOutlook、Windows 7のOutlook、のEメールメッセージを転送します。
- ・移行アシスタントが転送できる連絡先は、ログインしているユーザーアカウントのものだけです。

12. 「続ける」をクリックして、転送を開始します。

WindowsパソコンとMacの両方で進行状況バーが表示され、移行しているものと残りのおおよその所要時間が表示されます。移行が完了すると、作成したユーザーアカウントにログインできます。

転送したユーザーアカウントにログインすると、期待した場所に情報が移動しています。

- ・Windowsパソコンでカスタムデスクトップ画像を使用していた場合は、Macのデスクトップピクチャとして自動的に設定されます。デスクトップピクチャを変更するには、「デスクトップとスクリーンセーバ」環境設定を使用します。
- ・Eメールメッセージと添付ファイルを含むEメールアカウントは、メールで設定されます。
- ・連絡先情報は連絡先にあります。
- ・会議やイベントを含むカレンダーアカウントは、カレンダーに設定されます。
- ・ウェブブラウザのブックマーク、よく使う項目、ホームページは、Safariに設定されます。
- ・WindowsパソコンのiTunesで購入したiOS用のアプリケーションは、MacのiTunesにあります。WindowsパソコンのiTunesに保存していた音楽も、MacのiTunesにあります。
- ・「マイドキュメント」、「マイビデオ」、「マイミュージック」、「マイピクチャ」フォルダは、Finderの「書類」、「ムービー」、「ミュージック」、または「ピクチャ」フォルダにそれぞれ移動します。
- ・Windowsパソコンのデスクトップのファイルは、Macのデスクトップにあります。

移行アシスタントの使用の詳細は、Appleのサポート記事HT4796「Windows移行アシスタントについて」(http://support.apple.com/kb/HT4796?viewlocale=ja_JP)を参照してください。

外付けストレージにファイルをコピーする

外付けのストレージデバイスまたはディスクは、WindowsコンピュータからMacに大量のデータを移行する場合に便利です。WindowsコンピュータにCD/DVDドライブまたはUSBポートがある場合は、次の方法を選択してください。

- ・Windowsパソコンのファイルを外付けハードディスクまたはストレージデバイスにコピーします。そのドライブをMacに接続して、Macのハードディスクにファイルを移動します。ディスクは最初にWindowsパソコンでフォーマットしてください。MacはWindowsコンピュータのネイティブフォーマットのディスクを読み取ることができますが、WindowsはMacのネイティブフォーマットのディスクを読み取ることができません。
- ・WindowsパソコンでCDまたはDVDにファイルを書き込み、Macでそのディスクを使ってコンピュータのハードドライブにファイルを移動します。

Eメールでファイルを移行する

Windowsコンピュータから転送するデータが5MB以下の場合は、Eメールで送信できます。

Eメールでファイルを移行する

1. WindowsパソコンでファイルのグループをZIPファイルにします。
2. Windowsから、必要なすべてのファイルを自分宛てにメールで送信します。
3. Macのメールを使って、メールで送信したファイルにアクセスします。

データのバックアップ

ハードウェアの故障、ユーザーエラー、データの破損、装置の盗難などによってデータが失われる可能性があるため、データを保護するために頻繁にバックアップを行うのが最良の方法です。OS XにはTime Machineアプリケーションが含まれており、システムと、重要で代わりがきかないファイルをハードディスクまたはネットワークボリュームに自動的にバックアップします。

Time Machineでデータをバックアップする

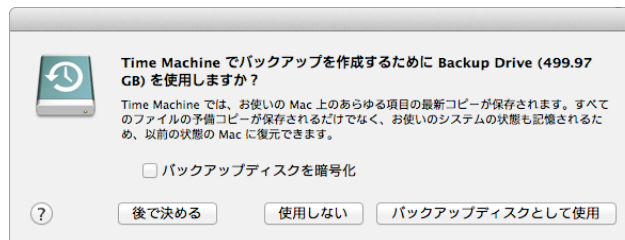
Time Machineを使うと、ファイルまたはシステム全体を簡単に復元できます。デフォルトの設定で、Time MachineはMacの重要なデータ（アプリケーション、デジタル写真、音楽、ムービー、書類など）の最新版を保持します。必要な時にはいつでも、「その時に戻って」ファイルを簡単に復元できます。Safariのキャッシュや特定の基本システムファイル、Time Machineのバックアップボリュームに保存されているファイルなど、一部のファイルタイプはデフォルトで無視されます。

Time Machineの設定は、USB、FireWire、Thunderbolt、eSATAの外付けハードドライブをMacに接続する場合と同じように簡単です。デスクトップのMacに2台目のディスク（Macが起動ディスクとして使用していないディスク）が内蔵されている場合は、このディスクを使うこともできます。

Time Machineを設定する

1. FireWire、USB、またはThunderboltのハードドライブをMacに接続します。

バックアップディスクを指定していない場合、Time Machineで、新しく接続されたディスクをバックアップディスクとして使用するかどうか確認するメッセージが表示されます。



2. 「バックアップディスクとして使用」をクリックし、Time Machineのバックアップにこのディスクを使用することを確認します。

「Time Machine」環境設定が開き、バックアップデバイスとして選択したディスクが表示されます。

Time MachineでMacを自動的にバックアップするために必要な処理はこれだけです。最初のバックアップにはしばらく時間がかかる場合があります。夕方にTime Machineを設定し、最初のバックアップを夜間に行うように設定するとよいでしょう。デフォルトで、Time Machineは1時間ごとのバックアップ（過去24時間分）、1日ごとのバックアップ（過去1か月分）、および週ごとのバックアップをバックアップディスクがいっぱいになるまで保持します。

Time Machineバックアップディスクを手動で選択する

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「Time Machine」をクリックします。



2. 「ディスクを選択」をクリックします。

起動ディスクを除く、適切なボリュームがすべてリスト表示されます。



3. バックアップを格納するディスクを選択し、「ディスクを使用」をクリックします。

バックアップ方法の変更

ハードドライブだけでなく、ネットワークサーバやクラウドベースのサービスにバックアップできます。

サーバにバックアップする

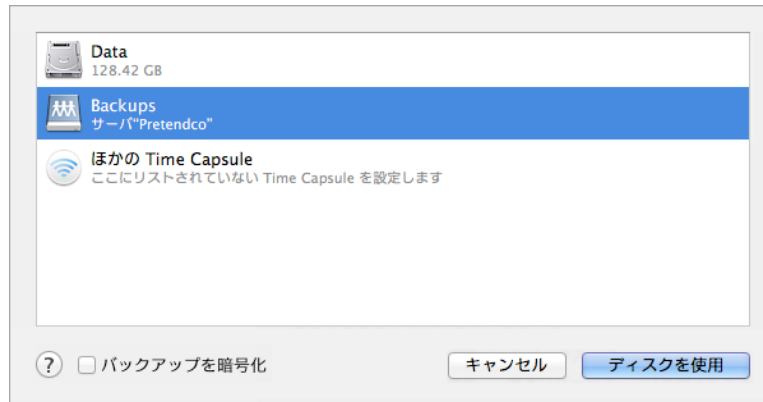
組織でネットワークホームフォルダが設定されている場合は、次の手順を実行します。ネットワークホームフォルダはローカルドライブではなくサーバ上に存在するのでサーバがバックアップされていれば、ネットワークホームフォルダに格納するファイルはバックアップされます。

ネットワーク上のディスクにバックアップするには、ネットワークサーバがApple File Protocol (AFP) ファイル共有を使用していること、自分のMacとネットワークバックアップディスクの両方にOS X 10.5.6以降がインストールされていることが必要です。ネットワークサーバでTime Machineを使用できるようにするには、Finderの「移動」メニューから「サーバへ接続」コマンドを使い、ネットワークサーバがMacで共有ボリュームとしてマウントされていることを確認します。

1. アップルメニューから「システム環境設定」を選択し、「Time Machine」をクリックします。



2. 「バックアップディスクを選択」をクリックします。



3. バックアップを格納するネットワークサーバを選択し、「ディスクを使用」をクリックします。

まとめ

この章では、データ管理について、およびWindowsコンピュータから様々な方法でファイルを移行する方法について学習しました。また、Macで情報をバックアップする方法、データの紛失や金銭的なリスクを予防する方法も学習しました。Time Machineを使うと、こうしたプロセスが簡単になります。

このセクションで学習したことに基づいて、次のタスクを実行してください。

- ・ 移行アシスタント、外付けストレージ、Eメールを使って、WindowsコンピュータからMacにデータを移行します。
- ・ Time Machineで外付けハードドライブの使用を設定します。
- ・ Time Machineで定期的にデータをバックアップします。
- ・ サーバにデータをバックアップします。

OS Xでは、MacをWindowsおよび混合オペレーティングシステムネットワーク環境にシームレスに統合できます。Microsoft Officeを使用したり、多くのプリンタやカメラに接続したり、Windows/パソコンのネットワークに接続することができ、MacでWindowsを実行することもできます。OS Xには、Microsoft Exchange Serverの最新版のサポートが組み込まれているため、自宅でも職場でも、お気に入りの機能やアプリケーションをすべてMacで使うことができ、メッセージ、会議の予定、連絡先を1か所で管理できます。

OS X対応のMicrosoft Officeネイティブバージョンを利用できます。Macユーザーにとって使いやすいインターフェイスが採用されており、Windows/パソコンと同じように、Wordでドキュメントを、PowerPointでプレゼンテーションを、Excelでスプレッドシートを作成できます。MacはMicrosoft Office for Windowsと互換性があるので、友達や同僚と簡単にドキュメントを共有できます。MacにOfficeがインストールされていなくても、クイックルックを使えば、アプリケーションを開かなくてもOfficeドキュメントをプレビューできます。また、OS XはOSレベルでPDF、TXT、JPEG、PNG、PSDなどの主なファイルタイプをサポートします。

新しいMacには、Boot Campを使ってWindows 7またはWindows 8のオペレーティングシステムをインストールしてネイティブスピードで実行できます。設定は簡単で、Macのファイルも安全です。インストールを完了すると、OS XまたはWindowsでMacを起動できます。また、再起動せずにWindowsアプリケーションとMacアプリケーションを同時に実行したい場合は、VMwareまたはParallelsソフトウェアを使ってOS X内にWindowsをインストールすることもできます。

この章では、MacとWindowsの両方で利用できるアプリケーションについて学習します。また、Windowsファイルのサポートが組み込まれたMacアプリケーションについても学習します。次に、MacでBoot Campを使ってWindowsオペレーティングシステムをネイティブで実行する方法、VMware FusionおよびParallels Desktopを使って仮想的に実行する方法を学習します。

クロスプラットフォームの互換性

両方のオペレーティングシステムで利用できるアプリケーションを使って、OS X内でWindowsのファイルを操作できます。また、Mac専用のアプリケーションで、Windowsのファイルフォーマットでフォーマットされたファイルを読み込むことができます。

クロスプラットフォームのアプリケーション

ソフトウェアの開発者は、多くの組織で使用されている混合オペレーティングシステム環境を考慮して、WindowsとOS Xの両方向けにアプリケーションのバージョンを提供しています。

クロスプラットフォームの仕事効率化アプリケーションには、次のものがあります。

- Microsoft Office (Word、Excel、Messenger、PowerPoint)
- Adobe Acrobat、Photoshop、Illustrator、InDesign、After Effects、Premiere Pro
- Intuit QuickBooks
- FileMaker

クロスプラットフォームのファイルタイプ

Macの多くのネイティブアプリケーションは、Windowsで作成されたファイルを読み込むことができます。こうしたアプリケーションを使うと、Officeドキュメント、PDF、画像、テキストファイル、MP3、ビデオ、ZIPファイルなど、ほとんどの一般的なファイルタイプを表示できます。

WindowsファイルをサポートするMacアプリケーションには、次のものがあります。

- Microsoft Wordおよびその他のWindowsテキストフォーマットのほとんどを読み込むことができるPages。
- ExcelおよびQuicken Open Financial Exchangeファイル、カンマ区切りの値、タブ区切りのファイルを読み込むことができるNumbers。
- PowerPointプレゼンテーションを読み込むことができるKeynote。
- .aviビデオファイルおよび.wavオーディオファイルを読み込むことができるQuickTime互換のアプリケーション。

MacでWindowsを実行する

IntelベースのMacはWindowsを実行するコンピュータと同じプロセッサを使用しているので、様々な方法でWindowsソフトウェアを直接実行できます。OS Xに付属しているBoot Campソフトウェアを使えば、MacでWindowsオペレーティングシステムをネイティブで起動できます。また、VMware FusionやParallels Desktopなどの仮想化アプリケーションでMacのデスクトップ上に仮想Windowsコンピュータを作成し、OS Xで直接Windowsを実行することもできます。このセクションでは、Boot Campの設定方法および仮想化について学習します。

Boot Camp

Boot Campを使用すると、Microsoft Windowsインストールディスクを使って、Macコンピュータの別のパーティションにWindowsをインストールできます。インストール後は、MacでWindowsまたはOS Xのいずれかを使用できます。Boot Campを使用すると、Windowsアプリケーションは、マルチプロセッサ、マルチコア、高速3Dグラフィック、高速ポートおよび高速ネットワーク（USB、FireWire、Wi-Fi、AirMac、ギガビットEthernetなど）にも完全にアクセスできます。

MacコンピュータにWindowsをインストールするには、次の手順を実行します。

ステップ1：ファイルをバックアップする。

ステップ2：アップデートを確認する。

ステップ3：Windows用にMacを準備する。

ステップ4：Windowsをインストールする。

ステップ5：Windowsサポートソフトウェアをインストールする。

以下は、MacコンピュータにWindowsをインストールするために必要な手順の概要です。ただし、Boot Campアシスタントからアクセス可能なBoot Campのヘルプを確認してください。

ステップ1：ファイルをバックアップする。

Windowsをインストールする前に、必ず重要なファイルをバックアップしてください。ファイルのバックアップには、Time Machineやその他のいくつかの方法を使うことができます。

ファイルのバックアップについては、このガイドの「データの管理とバックアップ」の「データのバックアップ」セクションを参照してください。

ステップ2：アップデートを確認する

1. Macの管理者アカウントにログインし、開いているアプリケーションをすべて終了して、コンピュータのほかのユーザーをログアウトします。
2. アップルメニューから「ソフトウェア・アップデート」を選択して、利用可能なアップデートをすべてインストールします。

1つのアップデートのインストール後にコンピュータが再起動した場合は、アップルメニューから「ソフトウェア・アップデート」をもう一度選択してその他のアップデートをインストールします。

3. www.apple.com/jp/support/bootcampにアクセスして、追加のアップデートが必要かどうかを確認します。

ステップ3 : Windows用にMacを準備する

Boot Campアシスタントは、Windows用に新しいパーティションを作成してから、Windowsインストーラを起動することで、Windows用にMacを準備するためのサポートをします。オプションで、MicrosoftからダウンロードしたWindows ISOイメージ（DVDの内容をすべて含むディスクイメージ）が入ったUSBフラッシュドライブを使ってWindowsをインストールできます。

アシスタントを開始する前に、Boot CampアシスタントがWindowsサポートソフトウェアをダウンロードするための空のCDまたはDVD、あるいはMS-DOS（FAT）フォーマットされた外付けドライブを用意します。

1. Launchpadの「その他」フォルダにあるBoot Campアシスタントを開きます。



2. 「続ける」をクリックします。

3. Windowsをインストールするためのオプションを選択し、ほかに必要なオプションがあればそれを選択します。



「Windows 7またはそれ以降のバージョンのインストールディスクを作成」オプションが利用できる場合は、MicrosoftからダウンロードしたWindows ISOイメージを含むUSBフラッシュドライブを使ったWindowsのインストールをサポートします。

USBフラッシュドライブを使ってWindowsをインストールには、次が必要です。

- MacにダウンロードされたWindows 7 Home Premium、Windows 7 Professional、Windows 7 Ultimate、Windows 8、またはWindows 8 Proのそれぞれ64ビットバージョンのISOイメージ。
- 8GB以上のUSBフラッシュドライブ。

Boot Campアシスタントはフラッシュドライブを消去してWindows ISOイメージとソフトウェアドライバをコピーし、WindowsがMacハードウェアで動作できるようにします。

4. 「続ける」をクリックします。
5. 「Windows 7またはそれ以降のバージョンのインストールディスクを作成」オプションを選択している場合は、画面の指示に従って起動可能なUSBドライブを作成し、「続ける」をクリックします。



6. 画面の指示に従って、CD、DVD、または外付けディスクにWindowsサポートソフトウェアを保存します。



7. 「続ける」をクリックします。
8. Windowsパーティションを作成するよう求められたら、パーティションのサイズを指定します。



お使いのWindowsに最適なパーティションサイズについては、Windowsインストーラの製品ドキュメントを参照してください。Windows 8の場合、30GB以上のパーティションを作成してください。

後半の手順で、Windowsパーティションをフォーマットします。

9. 64ビットバージョンのWindowsのインストールディスクを使っている場合は、Macの光学式ドライブまたは外付けの光学式ドライブに挿入します。または、64ビットバージョンのWindowsが入ったUSBフラッシュドライブを挿入したままにします。
10. 「インストール」をクリックします。

Boot CampアシスタントがWindowsパーティションを作成し、Macを再起動するとWindowsインストーラが開きます。

ステップ4：Windowsをインストールする

Windowsのインストールと設定に関する一般的な情報については、Windowsマニュアルを参照してください。

WindowsをインストールせずにBoot Campアシスタントを終了した場合は、Boot Campアシスタントを起動して、続きから手順を続けます。

1. Windowsインストーラの画面の指示に従い、アップグレードまたはカスタムインストールのどちらを行うかをたずねる画面まで進みます。この画面では、「カスタム」を選択します。
2. Windowsをインストールする場所をたずねられたら、BOOTCAMPという名前のパーティションを選択します。

警告：パーティションを作成または削除したり、ほかのパーティションを選択したりしないでください。そのような操作を行うと、OS Xのパーティションの内容がすべて削除される場合があります。

3. 「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。
4. 「フォーマット」をクリックして「OK」をクリックします。
5. 次に、「次へ」をクリックして、NTFSファイルシステムでWindowsパーティションをフォーマットします。
6. 画面の指示に従って、Windowsのインストールと設定を完了します。

Windowsソフトウェアのインストールが完了したら、Macが自動的に再起動し、Windowsが使える状態になります。Windowsの設定画面を使って、Windowsを設定します。

ステップ5：Windowsサポートソフトウェアをインストールする

Windowsをインストールしたら、Windows用のMac特有なドライバとその他のサポートソフトウェアをインストールします。サポートソフトウェアは、AirMac、内蔵カメラ、Apple Remote、ポータブルMacのトラックパッド、Apple Keyboardのファンクションキーを含む、MacハードウェアをサポートするためのBoot Campドライバをインストールします。また、Windows用のBoot Campコントロールパネルと、Apple Boot Campシステムトレイ項目もインストールします。

Boot Campアシスタントの「最新のWindowsサポートソフトウェアをAppleからダウンロード」オプションを選択すると、サポートソフトウェアをダウンロードできます。サポートソフトウェアは、MS-DOS（FAT）でフォーマットされたUSBフラッシュドライブにコピーしてください。

1. インストーラが自動的に開始されます。開始されない場合は、サポートソフトウェアがあるUSBフラッシュドライブのBootCampフォルダにあるsetup.exeをダブルクリックします。
2. 画面に表示される指示に従ってください。

重要：インストーラダイアログで「キャンセル」ボタンをクリックしないでください。

インストールしようとしているソフトウェアがWindowsロゴテストに合格していないというメッセージが表示されたら、「続行」をクリックします。

インストール中に短時間表示されるインストーラのダイアログには対応する必要はありません。

何も起こっていないように見えたら、対応すべきウインドウが隠れている可能性があります。タスクバーを確認して、開いているウインドウがないか探します。

3. コンピュータが再起動したら、表示されるその他のインストーラの指示に従います。
4. Appleのソフトウェアアップデートを使うか、www.apple.com/jp/support/bootcampにアクセスして、Windowsのサポートソフトウェアのアップデートがないか確認します。

WindowsとBoot Campのインストールが完了したら、MacでWindowsを使い始めることができます。Boot Campを使えば、OS XまたはWindowsのいずれかを使って簡単にコンピュータを起動できます。「起動ディスク」環境設定（OS X）または「Boot Camp」コントロールパネル（Windows）を使って、コンピュータのデフォルトのオペレーティングシステムを設定できます。コンピュータが起動する時にオペレーティングシステムを選択することもできます。

仮想化

Windowsのアプリケーションをたまにしか実行しない場合や、Boot Campの優れたパフォーマンスが必要ない場合は、仮想化を使うことで、OS Xを終了しなくてもWindowsにすばやくアクセスできるようになります。VMware FusionとParallels Desktopの2つは、サードパーティ製で人気のあるWindows仮想化ソフトウェアです。

VMware Fusion

VMware Fusionのダウンロードおよび購入については、www.vmware.com/jp/products/fusion/を参照してください。

Parallels Desktop

Parallels Desktopのダウンロードおよび購入については、www.parallels.com/jp/products/desktop/を参照してください。

注意：仮想化ソフトウェアのほか、使用するWindowsバージョンのフルインストール版のWindowsインストールディスクも必要です。

まとめ

この章では、Windowsユーザーとシームレスに作業できる、OS Xのクロスプラットフォームの互換性について学習しました。Microsoft WordやAdobe Photoshopなど、多くのWindowsプログラムではMac版も用意されています。NumbersやPagesなどのOS Xアプリケーションは、Windowsの一般的なファイルフォーマットに対応しています。Boot Campを使ってMac上でWindowsをネイティブに実行することも、VMware FusionやParallels Desktopなどの仮想化アプリケーションを使ってOS X内のウインドウ上で実行することもできます。

このセクションで学習したことに基づいて、次のタスクを実行してください。

- WindowsとOS Xの両方で利用できるアプリケーションを挙げてください。
- WindowsのファイルフォーマットをサポートするMacのネイティブアプリケーションを挙げてください。
- Macを設定して、Boot Campを使ってWindowsをネイティブに実行します。
- Windowsを実行するためのサードパーティ製仮想化オプションを挙げてください。

関連情報

Mac Integration Basics試験

「Apple Certified Associate - Mac Integration 10.9」資格を取得しましょう。オンラインでの受験については、<http://www.apple.com/jp/training/certification/macinteg/109exam>を参照してください。

サポート

AppleCare Protection Plan以外にも、Appleが提供するオンラインサポート (www.apple.com/jp/support) から、テクニカル記事にアクセスしたり、マニュアルをダウンロードしたり、サポートコミュニティに参加したりできます。

Appleのサポートサイトには、OS Xを初めて使うユーザー向けのオンライントレーニング資料も用意されています。Macデスクトップの使い方の学習（またはデスクトップという概念の理解）、プリンタ、iOSデバイス、デジタルカメラなどのデバイスの接続方法の確認をしたり、Eメールとインターネットについて、様々な操作方法、Macに付属するソフトウェアの使い方、または思ったとおりに動作しない時の対処方法などを確認したりできます。Macの基本はオンライン (www.apple.com/jp/support/macbasics/) で利用できます。